SEGA SAMMY
GROUP

Everything in entertainment

SEGA SAMMY GROUP CSR Report 2007

世界中の人びとに夢と感動を

株式会社セガとサミー株式会社は、世界的な総合エンタテインメント企業としての強固な地位確立と、企業価値の最大化を目的として2004年10月、経営資源を統合し、セガサミーグループとして新たな一歩を踏み出しました。
ステークホルダーとの信頼関係の向上により、グループと社会の持続的発展を目指しています。
そして今年、初めてのCSRレポートを皆さまにお届けします。

■セガサミーグループ　会社一覧

●国内

株式会社セガ
サミー株式会社
株式会社サミーネットワークス
株式会社セガトイズ
株式会社トムス・エンタテインメント
株式会社日商インターライフ
株式会社アイティアイコミュニケーションズ
株式会社イーアドレス
株式会社ウェーブマスター
株式会社エスアイエレクトロニクス
株式会社オアシスパーク
株式会社銀座
株式会社銀座販売
株式会社サミーシステムズ
株式会社サミーデザイン
株式会社サミーレンタルサービス
シーズ・シネマズ株式会社
セガサミーアセット・マネジメント株式会社
セガサミーゴルフエンタテインメント株式会社
セガサミーメディア株式会社
株式会社セガトイズ・プラス
株式会社セガ ビーリンク
株式会社セガ・ミュージック・ネットワークス
株式会社セガ・ロジスティクスサービス
株式会社タイヨー
株式会社ダーツライブ
株式会社テレコム・アニメーションフィルム
株式会社トムス・フォト
株式会社トムス・ミュージック
日本マルチメディアサービス株式会社
株式会社メディア・トラスト
株式会社リアラス
株式会社レシピ
株式会社レムアート
株式会社ロデオ

●海外

Sega Holdings U.S.A., Inc.
Sega Amusements U.S.A., Inc.
Sega Amusement Works, LLC
Sega Enterprises, Inc. (U.S.A.)
Sega Entertainment U.S.A., Inc.
Sega of America, Inc.
Secret Level, Inc.
Sega Holdings Europe Ltd.
Sega Europe Ltd.
Sega Amusements Europe Ltd.
Sega Benelux B.V.
Sega France S.A.
Sega Germany G.m.b.H
Sega Publishing Europe Ltd.
Sports Interactive Ltd.
The Creative Assembly International Ltd.
The Creative Assembly Ltd.
Sega (Shanghai) Software Co.,Ltd.
Sega Networks (China) Co., Ltd.
世嘉(上海)電子機械商貿有限公司
上海新世界世嘉遊芸有限公司
Sega Amusemets Singapore Pte Ltd.
Sega Amusements Taiwan Ltd.
Sega Korea, Ltd.
SEGA TOYS (HK) CO., LTD.
Sammy NetWorks Asia Pacific Ltd.
北京颯美网絡有限公司
広州市華創信息技術有限公司
TMS MUSIC (UK) LIMITED
TMS MUSIC (HK) LIMITED

（2007年7月31日現在）

会社概要

セガサミーホールディングス株式会社
〒105-0021
東京都港区東新橋1丁目9番2号
汐留住友ビル21階
●総合エンタテインメント企業グループの持株会社として、グループの経営管理およびそれに附帯する業務

株式会社セガ
〒144-8531
東京都大田区羽田1丁目2番12号
●業務用ゲーム機の開発・製造・販売
アミューズメント施設の開発・運営
家庭用ゲームソフトの開発・販売

サミー株式会社
〒170-6029
東京都豊島区東池袋3丁目1番1号
サンシャイン60 29階
●パチンコ・パチスロ遊技機の開発・製造・販売

事業構成

SEGA SAMMY GROUP

アミューズメント施設運営事業
パチンコ・パチスロ事業
アミューズメント機器販売事業
その他事業
コンシューマ事業

アミューズメント施設運営事業
アミューズメント施設の開発・運営などを行っています。

パチンコ・パチスロ事業
パチンコ遊技機、パチスロ遊技機並びに周辺機器の開発・製造・販売などを行っています。

アミューズメント機器販売事業
アミューズメント施設用ゲーム機の開発・製造・販売などを行っています。

その他事業
商業施設等の企画・設計・監理・施工などを行っています。

コンシューマ事業
ゲームソフト、玩具、携帯電話向けコンテンツ、アニメーションの企画・制作・販売などを行っています。

財　務

セガサミーホールディングス株式会社（グループ連結）　（単位:百万円）

	2005年3月期 通期	2006年3月期 通期	2007年3月期 通期
売上高	515,668	553,240	528,238
経常利益	104,432	119,500	81,287
総資産	438,991	522,914	549,940
自己資本比率（%）	59.0	60.6	61.5
社員数（名）	5,407	6,416	7,734

※2005年3月期の事業年度は、2004年10月1日から2005年3月31日までですが、財務データは2004年4月1日から結合していると見なして作成しています。
※財務情報の詳細については、アニュアルレポートまたはホールディングスWEBサイトをご覧ください。
http://www.segasammy.co.jp/japanese/ir/index.jsp

グループ経営理念

私たちは、世界中のあらゆる人々に夢と感動溢れるエンタテインメントを提供し、豊かな社会の実現と文化の創造に貢献します。

グループCSR憲章

グループCSR憲章制定にあたり

私たちは企業の社会的責任(CSR=Corporate Social Responsibility)の遂行を経営の重要課題と考えています。
社会に生き続ける「企業市民」として、CSRの精神に鑑み、すべての法令・社会規範を遵守し、ステークホルダーとより良い関係を築くことで、健全な経営の実現と社会的な責任を果たせるものと考えます。そのための業務執行の指針として、ここにグループCSR憲章を掲げます。

With Customers

私たちは、いつの時代においても、お客さまとともに歩みながら、
夢と感動溢れるエンタテインメントを提供し続けます。

With Partners

私たちは、取引先と公平・公正な関係を保ち、互いに切磋琢磨し、良きパートナーとして、
ともに夢と感動溢れるエンタテインメントの提供を目指します。

With Shareholders and Investors

私たちは、グローバルな視点をもって事業を展開し、継続的な成長・企業価値の最大化を目指します。
そして、適正な利益還元と適時的確な情報開示を通し、透明な経営を図り、株主・社会の期待に応えます。

With Employees

社員一人ひとりの創造性とチャレンジ精神がグループ発展の源であり、最大の財産です。
私たちは、社員が持つ限りない可能性を最大限発揮できる企業文化を育み、ともに成長していきます。

With Society

私たちは、企業市民として社会を構成する一員であることを強く自覚し、本来の事業活動の繁栄を通じて社会に貢献するだけでなく、
芸術・スポーツなどの文化の発展支援、地球環境保護への取り組みを、積極的かつ自主的に行います。

編集方針

セガサミーグループは、今回初めてのCSRレポートを発行しました。レポートを作成するにあたっては、さまざまなステークホルダーの皆さまに「わかりやすく読みやすい」誌面作りを目指し、以下のことに心がけました。なお、報告内容は2006年度の実績を中心に掲載しています。

1. CSR憲章を軸とし、ステークホルダーごとの構成で展開。
2. セガサミーグループをご理解いただくため、事業活動の概要を特集。
3. 客観性を担保するため、第三者のご意見を掲載。

また、可能な限り写真やイラストを多用し見やすさを重視し、総ページ数を抑えるとともに本レポートをWEBサイトに掲載し環境面にも配慮しました。

セガサミーグループは、今後もCSR精神を経営に反映させるため、ステークホルダーの皆さまとご意見を交換しあいながら、より良い「企業市民」となるべく、逐次改善を図っていきたいと考えています。添付のアンケートを含め皆さまの忌憚なきご意見をお待ちしています。

CONTENTS

参考にしたガイドライン

《GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」》
※GRI(Global Reporting Initiative)=グローバル・レポーティング・イニシアチブ。全世界で適用可能な、持続可能性報告のガイドラインを策定し、その普及に取り組む非営利組織。

アニュアルレポートとの関連性

基本的にアニュアルレポートでは財務情報を中心に報告し、CSRレポートでは非財務情報を中心に報告しています。CSRレポートに掲載されていない財務情報の詳細については、アニュアルレポートまたはホールディングスWEBサイトをご覧ください。
http://www.segasammy.co.jp/japanese/ir/index.jsp

対象範囲

期間:2006年4月1日〜2007年3月31日
※一部には発行日直近の報告や、2006年度以前の活動も含めています。
組織:セガサミーホールディングス株式会社、株式会社セガ、サミー株式会社
※一部にはグループ会社の活動を掲載しています。
発行:2007年8月(次回発行予定:2008年8月)

会社名の表記の定義

セガサミーホールディングス株式会社:ホールディングス
株式会社セガ:セガ
サミー株式会社:サミー

免責事項

本レポートには、セガサミーグループの過去と現在の事実だけでなく、社会情勢に関する予想や発行日時点での経営計画や見通し、将来予測が含まれています。これらの予想・予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって、将来の社会情勢や事業活動の結果が異なったものとなる可能性があります。読者の皆さまには、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

トップメッセージ

責任ある行動を取る企業でありたい
セガサミーグループのゆるぎない信念

グループ誕生による新たなスタート

2004年10月セガサミーホールディングス株式会社の設立により、セガサミーグループは誕生いたしました。セガおよびサミーの事業基盤をベースに、両社のブランド力、技術開発力、ノウハウなどにより、「世界No.1 総合エンタテインメント企業」を目指してスタートを切りました。

セガとサミーは創業より、世の中に喜びと楽しみをお届けし続け、日本の娯楽産業の一翼を担ってまいりました。両社に脈々と続いてきた企業風土などを受け継ぎ、セガサミーグループは「夢と感動溢れるエンタテインメントを提供し、豊かな社会の実現と文化の創造に貢献する」ことを経営理念に掲げ、日々邁進しております。

CSRの精神を経営に

セガサミーグループは経営統合により、これまで以上に大きな社会的責任を担う企業グループとなりました。約10万人の株主の皆さま、たくさんのお客さまとお取引先さま、約8,000人の社員を含むステークホルダーの皆さまが見つめる視線は今までとは全く違ったものとなり、社会の期待も計り知れないほど大きなものになっていると感じております。同時に、「企業市民」として社会に対する責任を積極的に果たしていくことは、経営上極めて不可欠なものであり、これなくして、企業の存続や持続的な成長はあり得ないと痛感しております。

セガサミーグループは、設立時より、法令や社会規範の遵守は当然のこと、リスクの的確なコントロールによる不正の根絶、安全性の向上への取り組みを強化してまいりました。CSRの精神をいち早く経営に取り入れ、ステークホルダーの皆さまを常に念頭に置くこと、調和を図ることを基本として、セガサミーグループの持続的価値創造を実現し、社会の持続的発展に貢献していきたいと考えております。

本業の「エンタテインメント」を通じて 真に必要とされる企業であり続けるために

この世の中は、決して楽しいことばかりでなく、つらいことや悲しいことも多いのかもしれません。だからこそエンタテインメントが社会で必要とされていると考えております。セガサミーグループは、持てる技術とノウハウを活かしたクオリティの高いエンタテインメントを一人でも多くの方に提供し、明るい世界の実現に役立ちたいと願っております。

アミューズメント機器販売事業、アミューズメント施設運営事業、コンシューマ事業を担うセガにおいては、業務用ゲームや家庭用ゲームを中心に、世界規模で多種多様なエンタテインメントを提供しております。また、オンライン・モバイル展開等、メディアミックスによる新しい楽しみ方を提案していくことで、エンタテインメントのウィングはさらに広がっていくものと考えております。

パチンコ・パチスロ事業を担うサミーにおいては、業界のリーディングカンパニーとしての責任を強く感じております。幅広い世代の方に気軽にパチンコ・パチスロを楽しんでいただけるよう、多様な遊技機の開発からパチンコ・パチスロホールの環境向上までを目指した「ルネッサンスプロジェクト」に着手しております。

また、遊びを通じて学習ができる「エデュテインメント」(エデュケイション+エンタテインメント)は、エンタテインメントのウィングの一つであるだけでなく、CSRとしても意義のあるものと考えております。

世界中へエンタテインメントを送り出すという私たちの本業を通して、夢と感動をお届けし、世の中に必要とされる企業であり続けること。それこそがセガサミーグループのCSR活動の目的です。新しいエンタテインメントを絶えることのないチャレンジ精神で創造してまいります。

社員一人ひとりの心に根付く、セガサミーのCSR

セガサミーグループのCSR活動にとっては、グループの社員全員がCSRを理解し、常に意識を持って働くことが、社会に対する責任を積極的に果たすうえで最も大切なことだと考えております。そして、あらゆるステークホルダーの皆さまと、これまで以上に良き信頼関係を築いていくためには、社員一人ひとりの日々の心がけが必要不可欠であり、それが出発点であるとも言えます。こうした考えのもと、セガサミーグループでは、社員の行動のガイドラインとなるよう、グループのCSR憲章や行動規範を制定し、全グループ社員へCSRの精神の浸透を図っております。

ステークホルダーの皆さまと さらなるコミュニケーションを

セガサミーグループでは、CSRレポートを通じて、CSR活動への取り組みを皆さまにご報告するにとどまらず、今後も皆さまとのコミュニケーションをさらに深めながら、自らの行動を見直し、さらなる改善を図ってまいる所存です。皆さまのご期待に応え、皆さまとともに歩み、責任ある行動を取る企業であり続けたいと強く考えております。

今後とも、倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

セガサミーホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長

里見 治

全世代が楽しめるエンタテインメント

コンシューマ事業

ソフトウェア・パブリッシャーとしての責任

家庭用ゲーム機の黎明期から市場に参入。さまざまなチャレンジを通じてお客さまに新しい遊びを提供し、マーケットをリードしてきました。2006年度は全世界で2,000万本以上の家庭用ゲームソフトを販売し、国内ソフトウェア・パブリッシャーとしては最大規模の実績を挙げています。お客さまの各階層に向けては、低年齢・ファミリー向けタイトルから本格的タイトル、最近のトレンドである実用・学習系タイトルまで、遊びの提供は広範におよび、総合パブリッシャーとしての確実な地位を築いています。

また、早くからオンラインコンテンツについても注力し、パソコン用ネットワークタイトルやモバイルコンテンツなど、あらゆるユーザーのニーズに応えられる豊富なコンテンツを市場に提案し、供給しています。

今後は、日米欧それぞれの地域特性によりフィットしたコンテンツを開発することで強力に事業展開を推進し、グローバル・パブリッシャーとして国際競争力をさらに強化していきます。

キャラクター育成

「ソニック・ザ・ヘッジホッグ」「甲虫王者ムシキング」「オシャレ魔女 ラブ and ベリー」「龍が如く」などを筆頭に、セガで豊富なキャラクターを有しています。これら既存のキャラクター育成をさらに強化していくとともに、新しいキャラクターを創出。それらを軸とした事業の多面的展開を図ることで、グループ全体の各事業間のシナジー創出を推進し、コンテンツプロバイダーとしての実力を高めたいと考えています。

アミューズメント施設運営事業

世代を超えた遊空間の提案

セガのアミューズメント施設は全国に約430店舗を展開しています。都市型から郊外型までさまざまな立地に応じて、また、屋内型テーマパークや大型複合商業施設、自社IP（知的財産）を活用した新業態空間など、あらゆるニーズに応じて多種多様な遊空間を展開し、世代を超えて親しまれています。これまで培ってきたエンタテインメント空間の開発、運営ノウハウを活かし、今後もさらなる新市場の創造を目指します。

新技術への積極的拡大

セガのアミューズメント施設では、携帯端末の普及当初より、携帯端末を会員証として利用するポイントサービスを受けることができる「セガ モバイルフレンズ」を開始しています。また「Edy」に代表される電子マネーへの対応も普及に先駆けて実施しており、すでに一部の導入店舗においては完全なキャッシュレス環境を実現するなど、アミューズメント施設の将来に向けた施策も積極的に実施しています。

甲虫王者ムシキング～グレイテストチャンピオンへの道2～

セガ公式サイト「ムシキング.com」

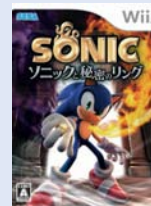
セガ公式サイト「オシャレ魔女.com」

オシャレ魔女 ラブ and ベリー ～DSコレクション～

セガ公式サイト「ソニックカフェ」

セガ公式サイト「VF.NET」

ソニックと秘密のリング

バーチャファイター5

「龍が如く」「龍が如く2」オリジナルサウンドトラック

龍が如く2

東京ジョイポリス

セガ ワールド ドリームファクトリー

携帯端末を使ったポイントサービス「セガ モバイルフレンズ」

人と人とのつながり—1960年、国産初のジュークボックス「セガ1000」から、セガのもの創りは始まりました。現在では家庭用ゲームソフト、業務用ゲーム機、アミューズメント施設を軸として、映像コンテンツ、ネットワーク関連など、多岐にわたった総合エンタテインメント企業として発展を遂げています。またセガサミーグループの発足後は、グループ間のシナジーによってさまざまな展開を推進しています。

ゲームがアニメーションと並んで世界的な人気を誇る新たな日本文化となり、ITをはじめ革新的手段による次世代コンテンツの創造が求められる時代において、セガは、常に新たな挑戦をしています。エンタテインメントを通じて、真の意味でボーダレスな「人と人のつながり」を生み出すこと、そして何よりお子さまから高齢者の方まであらゆる世代にエンタテインメントを提供すること。人々の心にさらなる潤いを、社会に一層の豊かさを提供するために、セガの挑戦はこれからも続いていきます。

オシャレ魔女 ラブ and ベリー　甲虫王者ムシキング

キッズ市場の創造

アーケードゲームにカード集めのおもしろさを導入した「甲虫王者ムシキング」、「オシャレ魔女 ラブ and ベリー」、「古代王者 恐竜キング」など、各種イベントの開催も含め、ファミリー層の大きな支持を得て、新市場を創造しています。

アミューズメント機器販売事業

業界のリーダーとして

世界で初めての体感ゲーム「ハングオン」、そして社会現象にもなったプライズマシンの「UFOキャッチャー」や世界初の3DCG対戦格闘ゲーム「バーチャファイター」——いつの時代も、セガのアーケードゲーム（業務用ゲーム）はアミューズメント業界をリードしてきました。最近ではネットワーク対応のトレーディングカードゲーム「三国志大戦」シリーズが大好評を博し、新感覚のメダルゲーム「アミー漁」や、人気レースゲームのシリーズ最新作「頭文字D ARCADE STAGE 4」なども大きな話題を呼んでいます。このような革新的な製品で業界をリードしていくという姿勢は、どのような時代においても変わることがありません。

アミー漁

新しい遊び方の提案

先端技術を使用した最新のアーケードゲームにおいて、新しい遊びを生み出す土台の一つとなっているのが、全国各地のアミューズメント施設を専用の回線でつなぎ、通信によるリアルタイムの対戦を実現可能としたネットワーク技術基盤「ALL.Net（オールネット）」です。この「ALL.Net」はセガから同業界の各社へ広く開放しており、一人でも多くのユーザーがネットワークを利用したアーケードゲームによる新たな遊びを体験できる環境の創出につなげています。携帯端末との連動も進み、ゲームキャラクターのカスタマイズや全国ランキングの閲覧等、従来のゲームの楽しみ方を超えた新しい遊び方が続々と生み出されています。

UFOキャッチャー7

全国のアミューズメント施設で遊ぶプレーヤーたちを結ぶネットワーク基盤「ALL.Net」

バーチャファイター5

頭文字D　ARCADE　STAGE 4

©しげの秀一/講談社　©SEGA

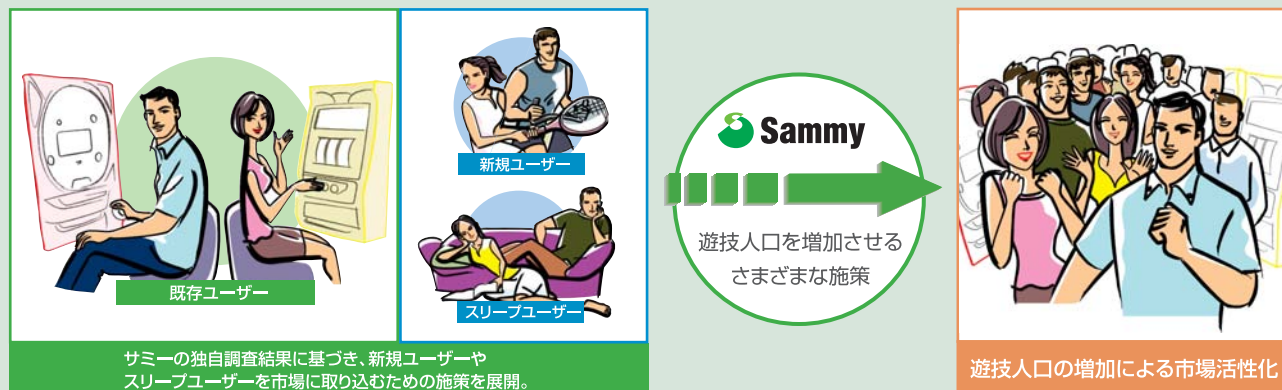
三国志大戦2

©SEGA

パチンコ・パチスロを もっと身近なものへ

「ルネッサンスプロジェクト」が目指すもの

パチンコ･パチスロ業界の復興には、既存ユーザーはもちろん、レジャー志向の多様化などの影響により、隆盛期以降離れていったスリープユーザー、パチンコ･パチスロを遊技したことがない新規ユーザーなど、さまざまな層の皆さまに心から楽しんでいただくことが不可欠だとサミーは考えます。すべてのユーザーに対して、遊技機の楽しさを再認識していただけるよう、斬新な技術と創造力をもって新たな道を切り開いていく多角的な取り組みを推進しています。

射幸性が低くても楽しめ、かつ遊びやすい遊技機の開発はもちろんのこと、パチンコ･パチスロホールにおける環境提案、さらに初心者向けのイベント開催や広告などのイメージ向上施策まで、多岐にわたってパチンコ･パチスロ業界の改革を進めていくこと。それがサミーの「ルネッサンスプロジェクト」です。

サミーが取り組んでいくこと

すべてのユーザーが楽しめる遊技機開発へ

メーカーという立場から、サミーがパチンコ･パチスロ業界の復興に最も貢献できるのが多様な遊技機の開発です。業界団体･組合では、「手軽に安く楽しく遊べるパチンコ･パチスロキャンペーン」を推進し、シンボルとして『遊パチ』マークを提供し、全メーカーに対して使用を呼びかけるなど、業界あげての取り組みとして広がりを見せています。

サミーでも現状の課題解決に積極的に取り組んだ遊技機の開発･販売はすでに進んでおり、射幸性が低く、少額でも数時間程度遊ぶことが可能な「じやん球」や、液晶画面がなく、高齢者の方などでも簡単に遊べる「CR OH！アニモー」などは、ルネッサンスプロジェクトの理念に基づいた遊技機の一つです。

また、パチスロにおいては、風適法施行規則等の改正※により、2007年6月以降、これまで市場導入されていた遊技機（4号機）よりも射幸性の低い遊技機（5号機）が主体となり、誰もが遊べる遊技機へと変革を遂げようとしています。サミーは、数々の新機能を搭載した“業界初”を生み出してきたノウハウを活かし、ユーザーが心から楽しめる遊技機開発を行っていきます。

さらに、今後は、新規ユーザーを取り込むべく、年代や性別、生活環境なども含めた詳細なターゲットを定めた上でコンセプトを追求するなど、多角的な視点で、より一層幅のある遊技機開発を進めていきます。サミーが目指すのは、すべての人が楽しめるパチンコ･パチスロ業界の姿です。

パチンコ
「CR OH!アニモー」

じやん球
「ドリームジャンベガス」

全業界団体･組合が推進している「遊パチ」

※遊技機メーカーに義務づけられている保安電子通信技術協会（保通協）による型式試験のルール変更

パチスロ
「パチスロ北斗の拳2 乱世覇王伝 天覇の章」

14世紀から16世紀にかけて、イタリアを中心に西ヨーロッパ広域にわたって大規模な文化革新運動「ルネッサンス」が起こりました。さまざまな新技術が発明されたのと同時に、芸術面では旧文化の良さが再び見直され、停滞していた西欧の文化が大きな変化を遂げました。現在、パチンコ・パチスロ業界にも同じ風が吹き始めています。昨今、遊技人口が減少してきた現状を、新たな転換期と捉え、いかにして新しい楽しみや新しい喜びを創り出していくかが重要だと考えられています。現状の課題・業界の未来・新旧ユーザーの思い――すべてを受け止め、前に進んでいくためにサミーの「ルネッサンスプロジェクト」は始まりました。

環境に配慮したホールの設計・施工

夕刊フジ(2006年11月22日)掲載広告

遊べる遊技機展示会風景

居心地が良いホール環境・空間の提案を

パチンコ・パチスロ業界全体を考えた際、ホール環境の整備は大きな命題といえるでしょう。サミーでは、ホールの経営におけるさまざまな問題や課題の解決案を提案する「ホールトータルサービス」事業を展開しています。サミーにしかできない"創造性豊かなホール空間と喜び"の提供を目指しています。

グループ内での連携やコラボレーションを図り、不動産総合企画から設計施工、そして周辺機器事業にいたるまで網羅された事業を展開するとともに、ホール内での分煙化や入門コーナーの設置などユーザーの目線に立った積極的なアイデアの提案を行い、ユーザーにとって居心地の良いホール空間づくりを推進しています。

イメージアップ・業界活性化のために

お客さまに安心して遊んでいただけるホール環境の整備を図り、業界の健全化を推進する第三者機関として、2006年8月、「遊技産業健全化推進機構」が設立されました。業界の健全な発展に寄与することを目的とした基盤の確立を進めるなど、改革が活発化しています。

このような背景の中、サミーでも、パチンコ・パチスロ業界に対するネガティブなイメージを払拭し、日本の大衆娯楽の一つとして、誰もが気軽に足を運ぶことができる環境づくりを積極的に推進しています。ユーザーのライフスタイルなどの意識調査の実施、業界や組合に対する啓発セミナーの開催、また新規ユーザー獲得に向けた広告やイベントの開催といったPR活動を行っています。

また、地域の高齢者施設と提携し高齢者の方々を本社ショールームにご招待し、パチンコ・パチスロを通じてレクリエーションを行うなど、さまざまな世代・ライフスタイルに対して"遊び"を提供しています。現在、この活動は全国の各拠点に広がりを見せています。(P35参照)

今後は、インターネットや携帯端末などのメディアも活用し、業界のイメージアップ施策や業界活性化のための啓発活動をさらに推進することが、業界のリーディングカンパニーである私たちの使命であると考えます。

5万人以上を対象に、属性や行動特性、市場実態、阻害要因、促進要因などあらゆる角度から独自に調査・分析を行い、結果を業界・組合などへフィードバックしている。

企業市民としての活動①

エデュテインメント
―― 新たな「教育」の創造

「気軽に楽しく頭脳をチェック！」―知的好奇心を満たす

昨今話題を集めている頭脳を使って知的好奇心を満たすタイプのコンテンツは、ゲームを主軸に、TV番組、雑誌など多岐にわたるメディアで取り扱われています。セガもまた各家庭用ゲーム機に豊富なラインナップを提供し、ブームの一翼を担っています。そのような中、新ブランドとして「知的好奇心研究所 なるほ堂」を展開。「脳力トレーナー ポータブル2」「ソニーコンピュータサイエンス研究所 茂木健一郎博士監修 脳に快感 みんなでアハ体験！」など有力ソフトの発売を皮切りに、一層の発展を目指します。

一方、アミューズメント施設においても、2006年7月よりタッチ式のアーケードゲーム「頭脳能力向上マシーン タッチでズノー 楽しくチェック？それともバトル！？」を投入。家庭用ゲームへの展開も決定するなど好評を博しています。

また大ヒットゲーム「甲虫王者ムシキング」については、実在する甲虫を題材にすることで、お子さまの、昆虫や自然に対する関心が高まるという、教育的要素を含んでいます。

知的好奇心研究所 なるほ堂™

脳力トレーナー ポータブル2

ソニーコンピュータサイエンス研究所 茂木健一郎博士監修 脳に快感 みんなでアハ体験!

脳年齢　脳ストレス計 アタマスキャン

タッチでズノー

G＆Eビジネススクールの開校

2006年4月、パチンコ･パチスロ関連業界のトップ企業である株式会社SANKYO、フィールズ株式会社、そしてサミーの3社の共同出資によって、G&Eビジネススクールが開校されました。

Gaming（ゲーミング）&Entertainment（エンタテインメント）を意味する名前の通り、受講内容はパチンコ･パチスロの枠を超えた幅広い分野を包括しています。エンタテインメントに対する考え方から始まり、マーケティングやホスピタリティなどまでもがテーマとして扱われ、このようなバラエティ豊富なカリキュラムはほかに類を見ません。

講師の多くは共同出資の3社から派遣されており、サミーからも多くの社員が教壇に立っています。現場の生の声を聞くことは、受講生たちにとって貴重な体験であり、今後もさまざまな部門からの講師派遣が予定されています。

2006年10月に1期生が、2007年4月には2期生がカリキュラムを修了し、現在3期生を対象に講義が行われています。同スクール卒業生の中には、サミーをはじめさまざまなエンタテインメント関連企業ですでに活躍されている方もいます。サミーは、優秀な人材の育成が業界の健全な発展につながると考えており、ほか2社と協力して積極的に同スクールを支援しています。

「エデュテインメント」とは、教育（エデュケイション）と娯楽（エンタテインメント）を合わせた造語です。「エデュテインメント」は、エンタテインメントを通じて楽しみながら考え、学ぶことを指しています。セガでは、自社のもつ技術と、クリエイティビティを応用して幅の広いエデュテインメントを実現しています。

一方、サミーは、エンタテインメントに関する教育を通じ、未来を担う人材を広く育成することを目指しています。

ゲーム技術を活かしたシミュレーション機による社会貢献

遊びながら交通学習をする子どもたち
（取材協力：科学技術館）

引退した消防ヘリコプター実機を使用したフライトシミュレータ
（取材協力：京都市市民防災センター）

自動車教習所向けシミュレータ

アミューズメント施設の定番となっているセガのCGドライブゲーム。このノウハウが、交通事故防止の教育においても活かされています。

2003年には自動車教習所向けシミュレータ「セガ・ドライビングシミュレータ」とその対応ソフトを発売し、自動車教習所に導入されています。また、同機は東京・千代田区「科学技術館」にも設置され、子どもたちが、楽しみながら運転や簡単な交通ルールを学習できるとの評判をいただいています。「科学技術館」設置の3台の内1台は、足の不自由な方向けの、運転補助装置付きになっています。同機のシステム、ノウハウを活用し業務用ゲーム機として開発された「免許の鉄人」も人気を博しています。

災害への意識向上

「京都市市民防災センター」においては、セガが開発を担当した消防ヘリコプターのフライトシミュレータ「エア・レスキュー・パイロット」や、大地震を想定したライドシアター「3D・京都大震災」などが常設され、災害への意識向上にひと役買っています。

今後も業務用ゲーム機や家庭用ゲームソフトの開発で育んだコンテンツ力と技術力を進んで活用し、幅広く社会貢献に役立てていきます。

G&E授業風景

フリーペーパーを発行する
など幅広く展開

ビジネス、マーケティングマネジメント、商品開発、
総合エンタテインメントの4コース選択制

スポーツを通じて、夢と感動を

国民的スポーツを元気に —— 野球部

野球部は、日本の国民的スポーツである野球を活性化するため、裾野を広げ、次世代の選手が夢を追い求められるステージを醸成したいという想いがベースとなり、2005年に創部し2006年1月より本格的に始動しました。

1年目にして都市対抗野球大会の東京都第1代表決定戦まで進出し、2年目の2007年には東京都代表として本選へ出場する快挙を成し遂げました。現在、都市対抗野球および日本選手権本選にて優勝することを目標とし、チーム一丸となって練習に励んでいます。

また、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。春のキャンプ地の宮崎や夏の北海道など、日本全国で少年野球教室を開催しています。野球教室では、野球の技術だけでなく終了後のごみ拾いを子どもたちと実施し、地域とのコミュニケーションを積極的に取っています。また、新潟県中越地震で大きな被害を受けた魚沼市にて、2006年7月に、被災地復興を旨としたチャリティー試合も実施しました。

目指すは日本一のチーム

いつもお世話になっているグランドの清掃

たすきをつなぎ、夢をつなぐ —— 陸上部

陸上部は2002年、他社よりサミーへ移籍した5名（選手3名、スタッフ2名）からスタートしました。少人数のために設立当初は個人競技部門にしか出場できませんでしたが、着実に部員を増やし、3年後に初出場した2005年の東日本実業団対抗駅伝大会では、全日本実業団女子駅伝への出場権を獲得しました。

個人競技部門でも、2003年のベルリンマラソンで優勝した橋本康子選手が、2007年3月の名古屋国際女子マラソンで自身初の国内マラソン優勝を飾り、世界陸上選手権への出場権を手にしました。アジアクロスカントリー選手権大会では日本代表として小竹恵理選手が5位に入賞しました。

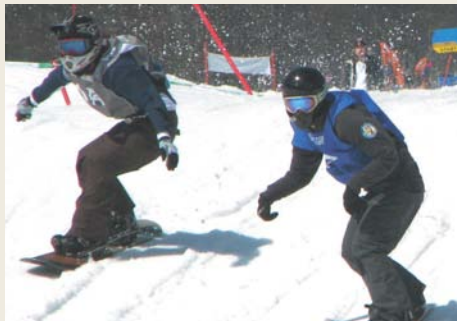
駅伝競技のように、長く苦しい道のりを、チームが一丸となってたすきをつなぎ乗り越えていくことを通じて、多くの方に希望や感動を感じていただくこと。それが陸上部のたすきに込めた「夢」です。

駅伝で日本一を目指しています

2007年名古屋国際女子マラソン優勝の橋本康子選手
©フォート・キシモト

セガサミーグループは、スポーツの持つ無限のドラマ性が夢と感動を呼び起こすと考えています。事業を通してエンタテインメントを提供するだけでなく、スポーツを通じても世界中のステークホルダーの皆さまに夢と感動をお届けしたいと考えています。

セガサミーアスレティッククラブに属する、野球部、陸上部、スノーボード部が、それぞれのスポーツに打ち込むことで、夢と感動をお届けするだけでなく、さまざまなスポーツへの支援を通して、スポーツ界の発展や、ひいては明るく健全な社会の形成に貢献していきたいと考えています。

自然の素晴らしさを伝える活動も行っています

激しいポジション争いがあるスノーボードクロス競技
（写真右：三井選手）

自然を体感できるスポーツを通じて —— スノーボード部

スノーボード部は、2002年5月サミーにて活動を開始しました。スノーボードの中で最もエキサイティングな種目「スノーボードクロス」の先駆けとして三井香織選手が活躍しています。

スノーボードクロスとは、複数名でスタートし、さまざまな障害物を越え速くゴールした選手が勝つという競技で、トリノオリンピックより正式種目となりました。複数の選手が同時に滑ることから、激しいポジション争いが発生することもあり「雪上のモトクロス」とも呼ばれています。

三井選手は、2006年のトリノオリンピックにおいて強化選手に選ばれただけでなく、2007年は国内最高峰レベルの大会において総合優勝を飾りました。また、一人でも多くの方にスノーボードの楽しさや、雪山の素晴らしさを知ってもらおうと、コーチとしてスノーボード教室にも積極的に参加しています。

多くの社員が応援に駆けつけます

ともに喜びを分かち合うことで一体感が生まれます

セガサミーアスレティッククラブから生まれる、グループとステークホルダーとの一体感

セガサミーアスレティッククラブでは、多くの部員を社員として雇用しており、現役引退後もそのまま社内でキャリアを積めるよう、人事面の配慮をしています。すでに、現役引退後、オフィスで働いている例もあります。

社員である部員は、ホールディングスとセガ・サミーのさまざまな部門に配属され、責任を持って業務に携わっているため、業務と競技活動の両方を継続して展開できる環境にいます。

また、全グループを挙げて応援に駆けつけるなど、スポーツの感動を部員と他の社員の双方が共有することができ、グループ全体の一体感の創出にもつながっています。

セガサミーアスレティッククラブは、勝ち負けのみで終わらない、スポーツが本来持つエンタテインメント性を最大限に引き出し、スポーツの奥深い楽しさを次世代に伝えていくことを大切にし、使命であると考えています。

今後もスポーツを通じて、社会へ夢と感動をお届けし、豊かな社会の創造にも貢献していきたいと考えています。

コーポレートガバナンス

セガサミーグループは、コーポレートガバナンスを企業行動の最も重要な基盤として位置づけており、持続的な企業価値創造にとって不可欠なことだと考えています。

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

セガサミーグループは、コーポレートガバナンスを企業行動の最も重要な基盤として位置づけています。企業経営の「効率性の向上」「健全性の確保」「透明性の向上」を「コーポレートガバナンスに関する基本方針」として掲げ、取締役候補者の選任、取締役報酬の決定、経営の監視、監査報酬の決定等、経営の重要な問題をこの方針に従い判断しています。

効率性の向上

迅速かつ適正な意思決定プロセスの確立および企業経営の効率性を向上させることで企業価値の最大化を目指し、株主の皆さまをはじめとするステークホルダーに対して、その利益の還元に努めていきます。

健全性の確保

激しく変化する事業環境の中、企業価値の最大化を図るため、グループを取り巻くさまざまなリスクを適切に認識・管理するとともに、法令のみならず倫理・社会規範等をも遵守する体制(コンプライアンス体制)を確立することで経営の健全性の確保を図っていきます。

透明性の向上

企業に対して情報開示の重要性が高まる中、ホールディングスは、株主の皆さまをはじめとするステークホルダーに対して説明責任を果たすとともに、積極的なIR活動を行うことでディスクロージャーをさらに充実させ、経営の透明性の向上を図っていきます。

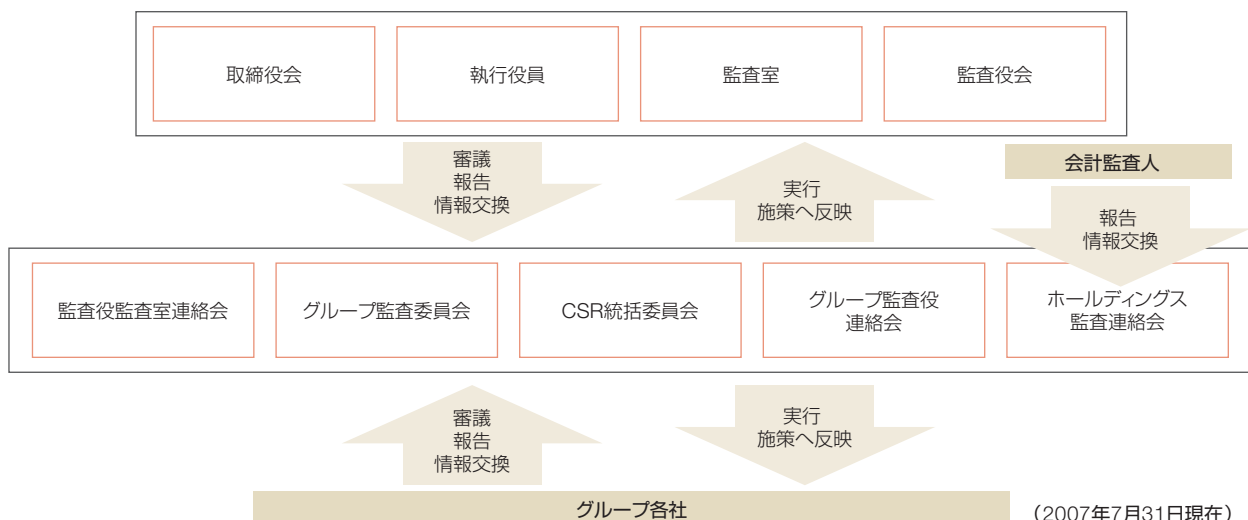
コーポレートガバナンス体制

セガサミーグループは、激しく変化する経営環境の中では、業界・市場動向・製品・商品・サービス等に関する知識や経験等に富んだ取締役が迅速かつ最適な経営判断を導き出すと考え、監査役設置会社形態を採用し、あわせて社外取締役の選任、執行役員制度と内部監査体制の強化を行い、運営と管理の両面からコーポレートガバナンス体制を充実させています。

コーポレートガバナンスに関する主な施策の実施状況

取締役会は、毎月1度の定時取締役会並びに適宜開催する臨時取締役会において、2007年3月期末現在7名の取締役により機動的経営を図っています。なお、グループ各社における一定の経営上の重要事項等については、ホールディングスの取締役会等の機関においても決議・報告を行っています。監査役会は、毎月1度の定時監査役会並びに適宜開催する臨時監査役会において、2007年3月期末現在4名の監査役により議論を行い、具体的問題について十分に分析検討しています。そのほか、グループ役員連絡会、グループ監査委員会等、模式図1・2の体制により各種施策を実施しています。

(2007年7月31日現在)

■コーポレートガバナンス体制に対する模式図2

内部統制システムの整備状況

セガサミーグループにおける、コーポレートガバナンスの充実に向けた今後の検討課題、検討中の施策および目標の代表的な事項としては、金融商品取引法が求める「財務報告に係る内部統制の評価及び監査」制度（いわゆる日本版SOX法）に対応する内部統制システムの評価・報告の仕組みの整備に向けたグループ内部統制プロジェクトの展開が挙げられます。

グループでは、従来よりグループ各社がそれぞれ独自の内部統制体制を敷いてきましたが、サミーにおいては、2006年3月期から、いわゆるCOSOのフレームワークを基礎とした内部統制システムの設計に取り組み、その後、金融庁のフレームワークが公開されてからは、これに沿った内部統制システムの構築を行っており、現在、制度の整備状況の有効性評価の段階へ進んでいます。

その一方、ホールディングスでは、2007年2月に内部統制推進室を新設し、従来から進めてきたグループ内部統制プロジェクトの推進母体として、先行したサミーの事例を他のグループ各社に応用することにより、各社の独自性を維持しつつ、企業集団として、日本版SOX法に対応する内部統制システムの評価・報告の仕組みの整備に取り組んでいます。2009年3月期には、日本版SOX法に基づく「内部統制報告書」及び「内部統制監査報告書」を開示できるものと考えています。

リスク管理

リスクマネジメントの根幹はコンプライアンス意識の根づいた企業風土により形成されるものであると考え、状況に応じて、コンプライアンス教育、内部監査活動の充実等、各種施策を講じています。また、セガサミーグループの事業におけるリスクについては、各々リスクマネジメント施策を講じつつ、必要に応じてホールディングスによる情報の吸い上げと共有を行うことによって、グループ全体でのリスクマネジメントを図っています。

情報管理体制の整備状況

ホールディングスの情報管理体制の整備状況については、「情報セキュリティーポリシー」、「情報管理規程」において、企業秘密その他情報の適正な取り扱いおよび管理方法を定めています。また、社内システム端末およびネットワークの使用については、社員から入社時に誓約書の提出を義務づけ、適正な管理・取り扱いを促しています。

公益通報制度

「グループCSR憲章」の精神に則って、グループ内での自浄機能を作用させ、社内における法令違反ないし不正行為等による不祥事の発生を防止するため、内部通報に関する制度（公益通報制度）を制定しています。グループ各社および社外の法律事務所に通報窓口を設置するとともに、通報事項に関する事実関係の調査、是正措置、再発防止策の実施、通報者の保護の制度を設けています。また、各社内には社員からの相談を広く受け付ける相談窓口を設けており、法令違反等の未然防止のみならず、メンタルヘルス対策も行っています。

災害発生等の緊急時対策

セガサミーグループは、災害や事故等で被害を受けた場合でも重要な業務が中断しないよう、また万一中断しても短期間で再開できるよう施策を講じています。ホールディングスは、大規模災害発生時に社員およびその家族の安否確認をスムースに行えるよう、緊急連絡や被害状況の把握を迅速かつ確実に行う仕組みとして「安否確認システム」を導入しています。また、緊急連絡手順の確認や防災グッズの配布など、災害発生時を想定した対策についても、グループ各社への導入を順次行っています。

CSRマネジメント

グループCSR憲章の制定にあたり

私たちは企業の社会的責任（CSR=Corporate Social Responsibility）の遂行を経営の重要課題と考えています。社会に生き続ける「企業市民」として、CSRの精神に鑑み、すべての法令・社会規範を遵守し、ステークホルダーとより良い関係を築くことで、健全な経営の実現と社会的な責任を果たせるものと考えます。そのための業務執行の指針として、グループCSR憲章を掲げ、セガサミーグループと社会の持続的発展を目指します。

CSR推進室の設立

2004年10月にセガとサミーは経営統合を行い、セガサミーグループが誕生。今まで以上に大きな社会的責任を持つ企業グループとなりました。

セガサミーグループは、「世界中のあらゆる人々に夢と感動溢れるエンタテインメントを提供する」ことを目指しています。エンタテインメントとは、夢であり、喜びであり、また文化でもあります。素晴らしいエンタテインメントを提供し続けることで、豊かな社会の実現と文化の創造に貢献していきます。

また、21世紀は本業の一層の充実のみならず、環境保全、法規制の遵守、積極的なディスクロージャーや経営の透明性など、経済・環境・社会の側面が重視されます。収益の増大だけでなく、「企業市民」として社会的な役割と責任を果たすことで、企業と社会がともに持続的な発展を遂げられると考えます。

このような背景のもと、セガサミーグループは企業の社会的責任の遂行を経営の重要課題と位置づけ、2005年4月にホールディングスにCSR推進室を設置。CSR活動に本格的に着手しました。

CSRの全体像

基本的な考え方

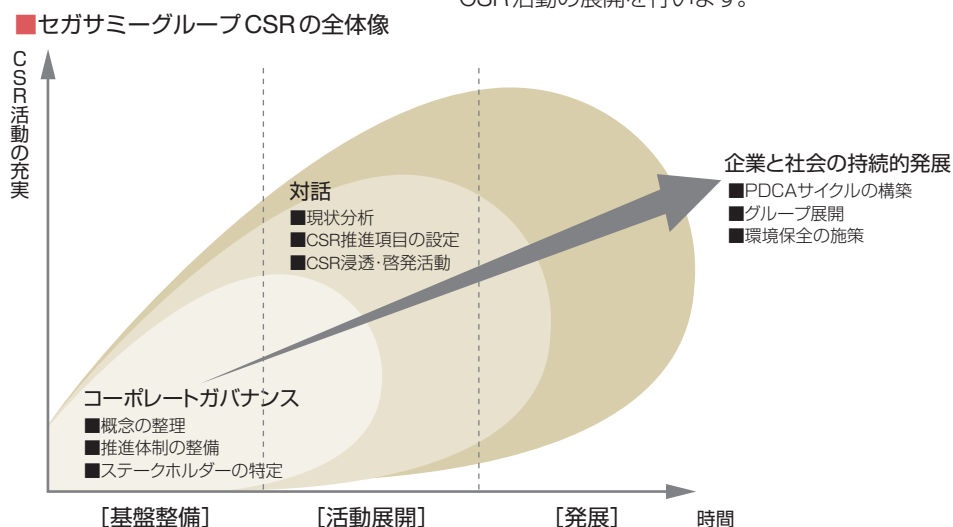
セガサミーグループのCSR活動は、大きく次の3つを基本的な考え方としています。

1. 健全な経営
2. ステークホルダーとのより良い関係
3. 企業と社会の持続的発展

展開の全体像

上記の3つの考え方を基に基盤整備・活動展開・発展という3つのフェーズを設けました。これによりグループ横断的なメリハリのある全体像を計画でき、目指すべきゴールと展開のマイルストーンを明確にすることができました。

まず1年目の2005年度は、グループ経営の基盤となるコーポレートガバナンス体制の強化を遂行。「グループ経営理念」、「グループCSR憲章」、「グループ行動規範」を制定し、ガバナンス概念を統一させました。2年目の2006年度は、CSRの浸透策を展開しながら、ホールディングスとセガ・サミーの現状分析を行った上でCSR推進項目を定め、CSR推進計画を策定しました。

今後は、CSR推進計画をCSR統括委員会にて着実に進捗させ、計画的にCSR活動を充実させていきます。また3社のこれまでの取り組みをベンチマークとし、全グループ会社へのCSR活動の展開を行います。

■セガサミーグループCSRの全体像

CSRの概念

CSRの精神をグループ経営における基本として、社会から真に必要とされる企業を目指す

セガサミーグループCSRの定義

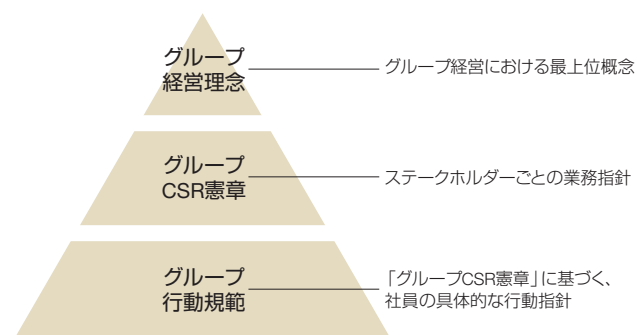
セガサミーグループでは、CSRを次のように捉えています。

■企業価値向上に向けた最重要課題として、社会に生き続ける「企業市民」として社会から必要とされる企業となるために取るべき行動全般を総称するもの

■コンプライアンスやリスクマネジメントを含んだコーポレートガバナンスを確立し、ステークホルダーとの関係を自主的・積極的に構築することを通じて、グループの持続的価値創造と社会の持続的発展の実現を目指すためのもの

経営理念－CSR憲章－行動規範

上記のCSRの考え方を、グループにおける経営の理念、方針から具体的な行動にいたるまで、組み込んでいくことを目指しています。そのために、「グループ経営理念」、「グループCSR憲章」、「グループ行動規範」を体系的に整備しました。これらを踏まえて、グループ全体としてCSRの精神を経営に取り入れた企業活動を展開します。

■CSRの位置づけと概念

セガサミーグループのステークホルダー

5つのステークホルダーとの関係を常に意識し、より良い関係を築き上げていく

「お客さま」、「取引先」、「株主・投資家」、「従業員」、「社会」という5つのステークホルダーとの関係を見つめ、より良い関係の構築、強化を目指して取り組んでいきます。

お客さま

お客さまの満足とともに、セガサミーグループも歩んでいきます。

取引先

取引先は、ともに成長を目指す対等なパートナーです。

株主・投資家

株主・投資家は企業の資本を構成する大切な存在です。

従業員

社員は、セガサミーグループにとっての最大の財産です。社員個々の成長があって初めて、グループの発展があります。

社会

セガサミーグループは、社会という基盤の上に成り立っています。社会貢献、環境への配慮等、企業市民として自主的・積極的に取り組みます。

■セガサミーグループが考える5つのステークホルダー

CSRの推進体制

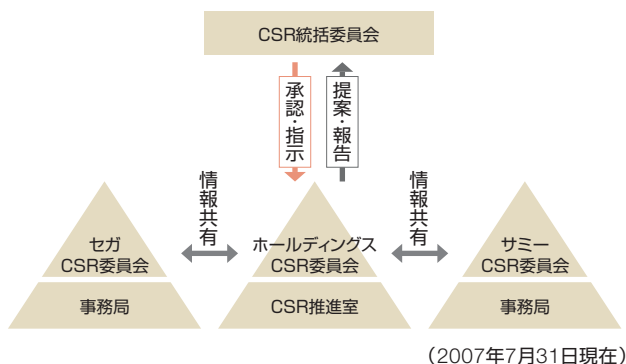
CSRコミッティ

CSR活動推進のため、グループ全体のCSR推進の方針や方向性の決定、具体的な推進策の設定や指示、進捗状況の確認や指導を行うCSR統括委員会を設置しました。

また、CSR統括委員会で決定したグループ全体のCSR活動計画の全体像やマイルストーンに基づいて、各社の計画策定や具体的施策の推進と進捗管理を行うため、ホールディングスとセガ·サミーそれぞれにCSR委員会を設置しています。

グループ全体のCSR活動を統括するCSR統括委員会は、ホールディングス代表取締役会長兼社長を委員長とし、セガ·サミー各社の社長も委員となっています。

またセガ·サミーそれぞれのCSR活動の進捗管理を行う各社CSR委員会は、セガ·サミー各社の社長が委員長となり、トップダウンの形で活動を推進する体制としています。

各社委員会事務局による連絡会議も定期的に開催し、情報交換や問題意識の共有を行い、統一感のある進捗を目指しています。

PDCAサイクル

CSR統括委員会、各社CSR委員会がそれぞれの役割を分担しながら連携して進捗管理を行うことで、グループ全体のCSR活動のPDCA（Plan · Do · Check · Action）サイクルが実現します。

PDCAサイクルにおいてはCSR推進計画(P)の策定にあたり、CSR統括委員会にて現状調査の結果を2度にわたり報告。問題点·課題の抽出を行い、グループCSR推進項目を計画化し、優先順位を決めて実施（D）しています。今後は、グループのCSR進捗状況の点検·評価（C）を的確に実施し、必要に応じて処置·改善（A）を行い、CSRの取り組みを着実に進めていきます。

CSR統括委員会は、グループCSRの最高意思決定機関として、CSRの進捗状況から社外·社内へのCSR報告の手法など、さまざまな取り組みについて委員会内で議論を行い、ホールディングスとセガ·サミーの経営層の共通認識とベクトルを合わせ、より有効で確実なCSR推進を実現しています。

■CSRコミッティ模式図

（2007年7月31日現在）

CSR統括委員会（ホールディングスにて四半期ごとに開催）

委員長:会長
·CSR推進方針·方向性の決定
·各社のCSR推進項目の設定·指示
·各社のCSR推進進捗状況確認·指導

各社CSR委員会（定期開催）

委員長:各社社長（ホールディングスは副社長）
·CSR推進項目の計画策定、実施
·CSR報告書発行に備えたデータベースの作成
·統括委員会への報告·改善作業実施

CSRの浸透　イントラネットや冊子を通じて社内におけるCSRの理解を深める

業務上、そして業務外においてもグループ社員一人ひとりが自身の問題としてCSR活動の重要性を受け止め、自主的·積極的に行動することが最も大切だと考えています。そのために、社員の理解度に応じた浸透策を検討·企画し、順次実行しています。

経営トップから

浸透策の一つとして、経営トップからのCSRメッセージ発信があります。経営トップが自らの言葉で、社員に対しセガサミーグループにとってのCSRの重要性、CSRへのゆるぎない信念を繰り返し発信しています。「グループ経営理念」、「グループCSR憲章」制定に際しては、ホールディングス代表取締役会長兼社長　里見治から動画にてメッセージ配信を行いました。グループ各社においても、社長自ら社員に向けたCSRメッセージを繰り返し発信することで、グループ一丸となった、統一の取れた啓発を行っています。

CSR浸透のための各種ツールの制作

グループ行動規範の制定にあわせ、CSRハンドブックの作成·配布、全事業所へのCSRポスターの掲示、イントラネットでのCSRページ開設を行いました。また、グループ社員に配布した手帳にも「グループ経営理念」「グループCSR憲章」、「グループ行動規範」を掲載しました。重要なテーマについては、理解を深めるために、より詳細な情報を掲載した冊子を作成しています。

CSRポスターと全社員に配布したCSRハンドブック

グループCSR推進項目

CSR推進項目と重点項目の絞り込み

統一感のあるグループCSR活動を進めていくため、CSR活動のスタンダードとなるグループCSR推進項目をステークホルダーごとに設けました。

グループCSR推進項目はGRIガイドライン（P3参照）および「CSRイニシアチブ※」を参考にしながら、「グループCSR憲章」と「グループ行動規範」の精神のもと、セガサミーグループの事業性や社会性を考慮しつつ、企業と経済・環境・社会との共生のため必要となる項目を抽出し大きくまとめたもので、35項目におよびます。さらにその35項目から、重要でありすぐに実施すべき項目として26項目の重点実施項目を設定しました。このように重要性に応じた取り組み順位を設け、着実なCSR展開を目指しています。

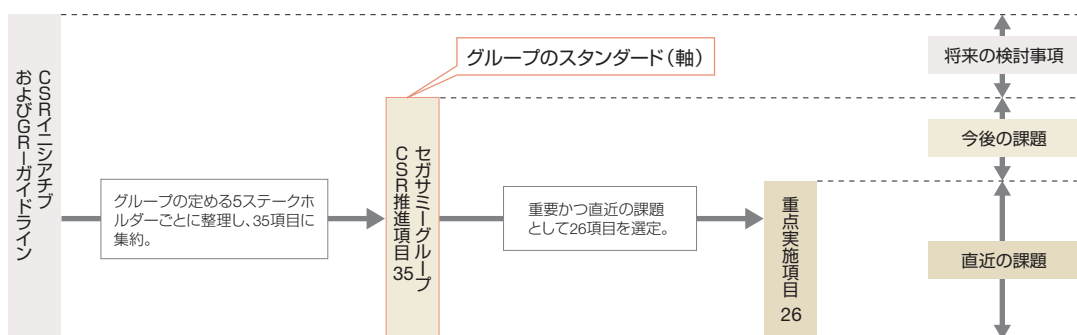
※：「CSRイニシアチブ」
日本経営倫理学会　CSRイニシアチブ委員会著
企業がCSRを進めていく上での羅針盤となるCSR経営理念・行動憲章・行動基準の推奨モデル

CSR活動の展開

重点実施項目を軸に、ホールディングスとセガ・サミーは全社でCSR活動の現状調査を実施し、達成度合いや改善計画の有無、今後の課題を洗い出しました。また、達成度合いはスコアカード化してCSR統括委員会へ報告を行いました。

CSR統括委員会は、CSR活動の現状を詳細に分析した上で今後の方向性および達成時期について指示し、各社のCSR推進計画に反映しました。

着実なPDCAサイクルを実現するため、CSR推進計画の進捗度合いは必ずCSR統括委員会に報告するルールとしています。また、CSR推進計画の軸となる重点実施項目がCSRレポートなどで常に発信されることが、社外への的確な報告と社内意識の高まりにつながり、CSR推進の後押しになっています。

■グループCSR推進項目の考え方

イントラネットを通じたCSR浸透

常に社員の目に触れるところにCSR情報を掲載することで、CSRに関する意識をより一層深めることができると考え、パート・アルバイト・派遣社員も含めて全従業員が閲覧できるイントラネットを活用しています。

CSRに関する情報を集約し、いつでも過去のトップメッセージの閲覧や、CSRハンドブックを参照することができます。また、社員が各々自分にとってのCSRを考えることができるように、CSRに関するコラムの掲載、ブログの立ち上げなどを実施しています。

CSRブログ（イントラネット）

セガ・サミー全体会議におけるCSR浸透

管理職を対象とし、セガ・サミー各社では定期的に全体会議を開催しています。この場において、それぞれの経営トップが、CSRの必要性・重要性を継続的に発信しています。

また、全体会議の終了後、管理職が自らの言葉として噛み砕いて部下に伝える仕組みをとり、一層のCSRへの理解の促進を図っています。

サミー全体会議風景

今後の方針について

社員がCSRを身近に感じ、具体的な行動へとつなげていくことが大切であるという軸をぶらさず、今後は、すでにあるツールを用いた研修や教育と、社員が体感し理解を深めることのできる具体的な活動を検討していきます。

お客さまとともに

CSR憲章　With Customers

私たちは、いつの時代においても、お客さまとともに歩みながら、夢と感動溢れるエンタテインメントを提供し続けます。

CSR推進項目

グループCSR推進項目のうち、お客さまについては、以下の項目を重点的に実施しています。

- CS（顧客満足）
- 安全・高品質
- 製品表示・情報開示
- マーケティング・市場調査
- 営業戦略
- 個人情報保護

私たちにとってお客さまとは

セガサミーグループが販売・提供している製品、サービスを楽しまれるすべての方々がお客さまです。私たちはすべてのお客さまのニーズに応え、心から楽しんでいただけるようなエンタテインメントを提供します。

セガ　セガの家庭用ゲームソフトを購入してくださるお客さま、セガの運営するアミューズメント施設や「ジョイポリス」などの施設にご来場されるお客さま、またセガのアーケードゲームを設置してくださるアミューズメント施設運営事業者の皆さまなど、すべてが大切なお客さまです。

サミー　サミーのパチンコ・パチスロ遊技機をご購入いただくホールの皆さま、そしてパチンコ・パチスロを実際にホールで楽しんでいただくユーザーの皆さま、どちらも大切なお客さまです。

CS（顧客満足）向上に関して

お客さまの満足のために社内体制を整え
ハード・ソフトの両面からアプローチ

お客さまから寄せられるさまざまな声に総合的にご対応させていただくため、セガ・サミーは共通の仕組みとしてお客さま相談室を設置しています。お客さま相談室は、グループ会社である日本マルチメディアサービス株式会社（JMS）に委託し、専門の窓口スタッフにより迅速かつ丁寧な対応を心がけています。

日本マルチメディアサービス株式会社は、104などの電話番号案内サービス業や各種コールセンター業務など、マルチメディア情報通信ネットワークサービス事業を行っています。

セガ

安全で高品質な製品の提供が最大のCS

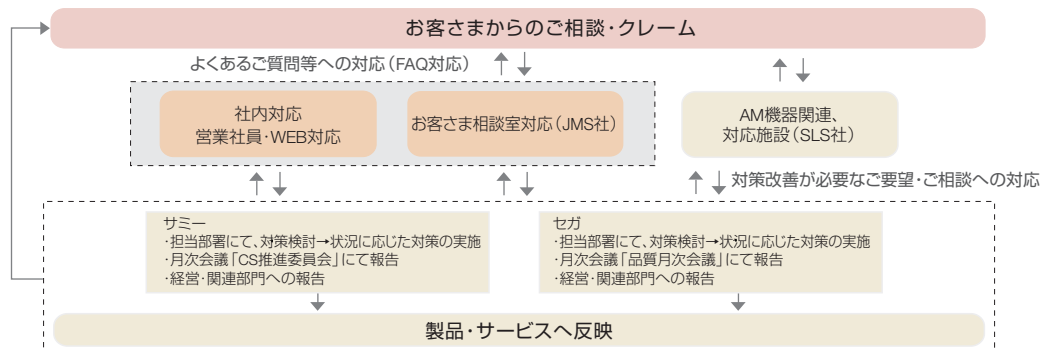
セガでは、「安全で高品質な製品の提供へ向けた体制の強化」をCSR重点推進課題として掲げ、CS（顧客満足）の向上を目指し、体制を強化しています。

具体的には、各種プロジェクトは、トップマネジメントによる「プロジェクト会議」にて意思決定され、一貫した管理・運営（開発着手から販売・プロジェクトの最終評価まで）を遂行。プロジェクトウォッチ機能（第三者によるプロジェクト監視と有事の際のアラーム発信）も設定され、管理基準のQCD（クオリティ/コスト/デリバリー・スケジュール）それぞれについて、これまでの反省も踏まえ管理の強化を図っています。

また、基礎システムの強化として、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001に則りシステムを構築し、「創造性で市場をリード、品質で顧客の満足を」という品質方針のもと、目標管理とその実践を通じて、安全で高品質な製品の提供を推進しています。

お客さまの声を集め、より良い製品開発に結び付けています
株式会社セガ　小池 直子

市場に出る前に、実際に機器をアミューズメント施設に置いて行うロケーションテスト。このテストで、アミューズメント施設運営事業者の皆さまからご要望を受け取り、開発部門に伝えることが私の仕事です。日ごろ気をつけていることは、受けたご要望を開発に伝える正確さとスピード。ご要望は、ゲーム内容に関するものから機器の部材の形状に関するものまでいろいろあります。これらを分析・集計し、開発へフィードバック。そこで最後の微調整が行われ、実際に商品が市場へと出ていきます。プライベートでアミューズメント施設に行くことも多いのですが、幅広い世代のお客さまがセガのゲームで楽しそうに遊ばれている様子を見るのが、やりがいにつながっています。

■お客さまからの声にご対応する仕組み

お客さま相談室の対応の様子

より良い製品・サービスを目指して

セガでは、お客さま相談室のほかに、保守・補修・パーツなどのアフターサービス、物流機能を担う株式会社セガ・ロジスティクスサービス（SLS・P37参照）と関連部門が品質問題や改善へ向けた傾向分析を定期的に行い、開発・生産・販売へフィードバックし、改善へ向けた取り組みを行っています。

万一、PL（製造物責任）問題等の重大な不具合が発生した場合を想定し、報告経路の設定はもちろんのこと、危機のレベルに応じて、対策組織の設置から情報開示、事態の早期解決、恒久的再発防止までを迅速に行うための体制強化も行っています。品質問題の未然防止を目指し、さらなる品質・安全の担保が可能となるようフェイルセーフティング（信頼性設計）の観点で活動していきます。

サミー

「Tr!pleC」の発想で展開する満足度向上

Tr!pleC

サミーでは、お客さまのさまざまなニーズに応えていくための活動として「Tr!pleC」を推進しています。Challenge（挑戦）、Change（変革）、Creation（創造）の3つの精神で、「サミーだからできる、サミーにしかできない」ことを実践し、すべてのお客さまに本当に満足していただくために社員一人ひとりが向上心、積極性を常に持つことが重要だと考えています。

ソフト面での顧客満足

ホールにとっては、来店客数の多い土日・祝日に遊技機が故障することは大変な営業機会損失です。そこで、2005年12月より、他社に先駆けて今までパチンコ・パチスロ業界内では着手されていなかった平日深夜・土日・祝日のカスタマーサポートを行い、ソフト面での顧客満足の向上に取り組み始めました。

2006年10月には、サミー内にカスタマーサービス部を新設。JMSとの連携により、アフターサービスレベルの全国的な統一が可能となりました。

後方支援体制の組織化により、サービスの質も向上し、実際に、ホールの皆さまからは「故障相談について丁寧に答えてくれた」「丁寧な応対で安心して利用できた」という満足の声が寄せられています。リレーションシップの強化につながり、さまざまな企画のご提案などにも注力できる環境になったといえます。

ハード面での顧客満足

サミーはこれまで、斬新かつエンタテインメント性の高い“業界初”となる製品を数多く開発してきました。それは、ユーザーに心から楽しんでいただける製品をご提供することが、最大の顧客満足だと考えているからです。ライトユーザー向けの「遊べる遊技機」の開発を始め、さまざまな世代のニーズに対応した全方位型の遊技機開発を進めることで、多種多様な営業形態を取るホールに満足されることを目指しています。ハード面においても多彩なラインナップを取り揃える多角的な展開により、すべての顧客満足を図っています。

バランスのとれた管理体制

サミーでは、製品開発、品質保証、顧客管理など各種のデータを一括管理することで、バランスの取れた管理体制を実現しています。また、ホールの皆さまの立場に立った、ホール経営の最適化の企画、提案、運営を目指しています。今後も、全社一貫したルールに基づいて、ホールの問題を迅速に解決する体制のもと、クレームの原因を追及し品質を高め、顧客満足度の向上に努めていきます。

多くのホールの皆さまにコールセンターを利用していただけるよう努めています
サミー株式会社　清水 登一郎

JMSの協力を得て、ホールの皆さまからの問い合わせ、部品の注文、クレームを受け付けるコールセンターを立ち上げています。ホールの皆さまにアンケートを取らせていただいたところ、コールセンターは休日や平日の夜も深夜まで営業しているので、「安心感がある」との回答を多数いただきました。アフターサービスでも業界をリードしていると自負しています。一方、営業担当者に代わり、コールセンターが「サミーの顔」となるので、電話応対の質の維持・向上には神経を使います。コールセンターを実際に利用していただいたホールはまだ全体の約4割。もっと存在や利便性を知っていただき、利用していただけるよう広報活動にも努めていきます。

製品・サービスに関する情報の開示

お客さまにより正しくご理解いただくために、適切なマニュアルやツールを活用

セガ

お客さまに安全にお使いいただけるよう、「取扱説明書」は、法規制（PL法等）、業界ガイドライン、社内のマニュアルに準じて、分かりやすく、適切な表現を心がけています。また、各種製品における、利用可能な対象範囲の明確化や、倫理問題にも積極的な取り組みを行っています。具体的には、業務用ゲーム機やアトラクションごとの利用規定の制定、ガイドブックや掲示によるご案内を行い、家庭用ゲームソフトについては、お客さまが安心して商品を選択できるよう、1994年に国内コンシューマ業界で唯一、倫理についての規程を定めた審査組織「テレビゲーム倫理審査機構」をセガ社内に設立。1995年より商品へのレーティング表示を開始。その後、業界として公正かつ適正なレーティングがCS向上へつながるものと考え、後に発足したコンシューマゲームソフト業界団体（CESA[※1]/CERO[※2]）発展に寄与すべく、規程や活動実績情報を提供してきました。現在は、すべての商品内容を吟味し、倫理審査（CERO審査）結果に従った表示を行っています。

※1：CESA=社団法人コンピュータエンターテインメント協会
※2：CERO=特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構

ひと目で製品概要がわかるように、製品パッケージには、ガイドラインに沿ったレーティングマークを表示しています。

サミー

サミーでは、ユーザーに対して、射幸心を煽るような表現や、誤解を与えるような表現をせず、パチンコ・パチスロを心から楽しんでいただけるようなツールを通じて製品をご紹介しています。また、一部市場に流布している根拠の無い不当な攻略情報に対し、サミーWEBサイト内において注意を促すなどの対策を図っています。そのほかにも、営業社員が使うツールでの曖昧な表現、誇大な表現を抑え、ホールの皆さまに正しく情報が伝わるよう工夫しています。またホールの皆さまのご協力のもと、ユーザーに楽しんでいただけるようなツールも配布しています。

機種別の詳細情報や遊び方を掲載した小冊子を作成しています。

マーケティング

より多くのお客さまのニーズに応えるための、さまざまな調査・分析

セガ

セガでは、お客さまのニーズに応えるため、マーケティングを重視しています。製品に同梱のアンケートや、セガWEBサイトへのお客さまの声、新製品やセガに対するお客さまのご意見の調査、また、アミューズメント施設でのアンケート、新製品のロケーションテストなどを通じ、さまざまなお客さまの姿やニーズが浮かび上がってきます。

こうしたニーズに応えるため、アミューズメント事業においては、初心者でも親しみやすいゲームや、お客さまごとにセグメントされたアミューズメント施設を開発していくことも大切だと考えています。

またコンシューマ事業においては、中期の製品ラインナップ戦略や、次年度発売予定の製品が、お客さまのニーズに合っているかといったミーティングを踏まえ、本格的なビジネスプランを策定し、より多くのお客さまのニーズにしっかりと応えるための製品開発に取り組んでいます。

サミー

サミーでは、既存ユーザーはもちろん、幅広い層の皆さまにもっと楽しく、気軽に遊技していただきたいという思いから、射幸性よりもゲーム性の高い遊技機の開発を行っています。市場のニーズを的確にキャッチアップするために、従来から機種ごとにホールの皆さまに対して機種評価アンケートを実施しています。さらに、こうしたアンケート結果に加え、製品CMを活用した「企業認知度調査」などさまざまな分析結果を基に、製品開発に努めています。

また、月に一度業界や市場動向をまとめたマンスリーマーケットレポートを発行し、営業社員に配布するとともに、スポットレポートと呼ばれる地域ごとの市場動向を分析・把握した情報を共有しています。このようなさまざまな情報を、ホールの皆さまに営業社員がいち早く伝えることで、戦略的な新台導入などをサポートしています。

営業への取り組み

お客さまの満足のために、万全な体制を整備

セガ

営業戦略

セガでは、全社員がマーケットインの発想を持ち、求められる製品を素早く市場に投入できる体制を整えています。

コンシューマ事業においては、プロジェクト会議などを通じ、時代を先取りし、お客さまのニーズに合った楽しく質の良い製品をお届けすることを常に目指しています。

アミューズメント機器販売事業においては、あらゆる企業のお客さまとのリレーション強化の一環として、販売支援システムを構築し、お客さま個々のニーズにマッチした製品を迅速にご提供できるよう努めています。また、セガはアミューズメント業界の健全な発展のために、業界が直面するさまざまな問題を解決することを目的とした会を設け、お客さま企業とともに活動を行っています。

アミューズメント施設運営事業では、常にお客さまの声を集め、施設運営に活かし、また、業務用ゲーム機の開発部門へもフィードバックすることで、あらゆるお客さまに優しく、安全で楽しい施設創りを目指しています。

営業社員の教育

セガでは、コンシューマ事業において、製品情報の共有を図り、円滑な営業活動実現のために、毎月新製品に対する勉強会を実施しています。アミューズメント機器販売事業においては、営業社員の教育計画を定め「顧客リレーション強化に必要な提案営業の為のスキルアップ」を目標として、年間の教育を実施し、加えて、毎月新製品に対する勉強会も実施しています。また、アミューズメント施設運営事業においても、アミューズメント施設でのお客さまの満足を最優先に、喜んでいただける接客を目指し、各階層の研修を定期的に実施しています。

アミューズメント施設運営事業での社員研修

サミー

営業戦略

サミーでは、パチンコ・パチスロ関連事業におけるトータルサービス企業を目指し、ホールの皆さまのさまざまなニーズにお応えするべく、「営業体制の強化」を図り、営業計画を策定し営業活動に取り組んできました。また、パチンコ、パチスロやじやん球などの製品開発、川越工場における生産体制の充実を図るとともに戦略的な設備投資も行っています。これらの取り組みにより、市場ニーズを開拓し、力強く営業展開することで、ホールの皆さまへの支援を強固なものとしています。

製品内覧会の様子

営業社員の教育

サミーでは、新入社員および中途社員を対象に各々研修を設け、マネジメントスキルの教育を実施しています。営業スキルについては、サミーの出資するG&Eビジネススクール（P10参照）において、エンタテインメント全般に関する幅広い知識を習得させるための研修も行っています。ホールの皆さまのさまざまなご要望に対応できるよう多角的な視点に立った育成プランにより、教育体制を整備しています。

個人情報保護の取り組み

より深い信頼の獲得を目指して、個人情報保護に努める

近年、事業活動における個人情報の重要性や有用性が高まっている一方、社会からは個人情報の適切な取り扱いを求められているということを強く認識し、セガサミーグループは、個人情報の保護に関する法律を遵守することはもとより、個人情報取扱事業者として、各社プライバシーポリシーのもと、個人情報の漏えい、滅失又は毀損などを防止するための適切な安全管理措置を講じ、皆さまからお預かりした個人情報の保護に努めております。

取引先とともに

CSR憲章　With Partners

私たちは、取引先と公平・公正な関係を保ち、互いに切磋琢磨し、良きパートナーとして、ともに夢と感動溢れるエンタテインメントの提供を目指します。

CSR推進項目

グループCSR推進項目のうち、取引先については、以下の項目を重点的に実施しています。

- ・公平な選定・公正な関係
- ・清廉性
- ・取引先との対話

グループ行動規範

セガサミーグループでは、取引先に対するグループ社員の行動指針として、「グループ行動規範」の中に6項目を掲げています。

①取引先との関係は、常に清廉・透明・公正なものとし、もたれ合いや癒着と誤解されるような行動は、一切行いません。

②取引先の選定については、信用度、技術力、開発力、価格、環境への対応力などを総合的に考慮し、公平かつ明確な基準で判断します。

③グループ会社とも、透明で公正な取引を行います。

④取引先に接待・贈答を行う場合は、社内で定められたルールに従うだけでなく、社会的常識に照らし合わせ、節度を保ち、適切に判断し、実行します。

⑤政治家、公務員（法人・団体の役職員であってみなし公務員とされる者を含む）、外国公務員など国内外の法令により禁止されている者に対して、贈賄をはじめ利益供与、便宜供与と見られる行為を行いません。

⑥取引先とは、立場を利用して利益や便宜の供与を受けるなどの個人的利益の追求を行いません。

公平な選定

パートナーとの良き信頼関係を築くため、多角的な視点から、グループ全体の基準や体制を整える

取引先選定基準を設け、パートナーの皆さまとともに

セガサミーグループでは、取引についての基本的な考え方として、グループ全社員に対し行動指針となる「グループ行動規範」を掲げ、意識の喚起を図っています。「グループ行動規範」は適宜見直しを図っていくため、社会情勢の変化やステークホルダーからの要請を全グループ社員はいつも意識していることになります。

また、「グループCSR憲章」、「グループ行動規範」の精神を受けた、グループとしての取引先選定方針を掲げています。この方針では、経済性、安全・品質、保守、技術、環境の面から取引先を選定すべきと謳い、この方針を受けたグループ各社は自社の事業領域による特性に合わせ、個別の基準を制定する予定としています。セガサミーグループのコンプライアンスに対する取り組みは、グループ会社だけでなく広く取引先のご理解を得てご協力をいただくことで、一層幅広く、かつ実効性が高くなるものと考えているからです。

セガ

購買ルールに従って取引先を評価・選定

セガでは、社内規程に従い取引先の評価・選定および、継続的な管理を実施しています。評価・選定については、継続的な管理結果を含め、複数部門で審査を実施しており、最終的な総合評価データから適正・適切であるかの公正な判断を行っています。

アミューズメント事業においては、参加各社の製造力強化と経営体質強化に寄与することを目的として、部品・材料等を納入する企業、半製品の加工外注企業等を会員とする「セガ協力会」を組織し、事務局としてその維持・運営にあたっています。この「セガ協力会」を基盤に、発注方針の開示を行うとともに、相互繁栄・啓発を目指した分科会や各種研修会を開催しています。また、取引先と、セガ経営トップとが直接対話できる機会も設け、業務運営が独善に陥らないよう、チェック機能を果たす場としても活用しています。

セガ協力会 2006年度総会

サミー

外部機関・複数部門によるチェック

サミーでは、購買外注管理規程、取引先口座管理規程など各種規程を定め、一定の購買ルールに従った取引先の評価・選定並びに取引の実施に努めています。

新規取引先の選定にあたっては、複数部門による審査を実施し、相手先や外部調査機関から入手したデータをあわせ参照した上で適正性を判断しています。また、取引開始後も、定期的な監査を実施し、評価の見直しを図っています。

公正な関係

パートナーとの公正な関係を維持するため、コンプライアンスを軸とした取引の清廉性の強化を実現

法令遵守をはじめとするコンプライアンス体制の推進

セガサミーグループは、法令遵守を目的として、グループ各社において業務の適正を確保する体制の維持・向上に努めているほか、グループ各社を対象にした勉強会を開催するなど、法令に関する知識の周知を適宜実施しています。

2006年11月に、セガが下請代金支払遅延等防止法(下請法)違反と判断され公正取引委員会より勧告を受けたことに対しても、グループ全体においてこれを真摯に受け止め、下請法遵守体制の一層の確立を目指し、主に以下の施策を展開しました。

- 下請取引状況の確認
- 下請取引関連部門・担当者を中心とした下請法教育の実施
- 下請法に関する基礎情報や契約雛型の改定・提供
- 下請法関連事項における監査体制の強化

また、「グループ行動規範」の精神を受け、これを具体化した内容のコンプライアンスハンドブックを制作しました。このハンドブックは、日常遭遇しそうな出来事を想定した内容を掲載し、グループ社員に分かりやすく読みやすく編集しています。これ以外にも、継続的な社内教育や啓発を行い、コンプライアンス意識の向上に努めています。

セガ

清廉性の表明と認識のさらなる強化

セガでは、取引先に対し、儀礼廃止や金品の贈与、接待等を行わないことなどの書面通知を行うとともに、「セガ協力会」等の場において、取引関係の清廉性の維持を表明し、コンプライアンス推進への参加についても要請を行っています。

また、グループコンプライアンス体制の一環として、管理職や一般社員を対象に、各種セミナーを開催し、その中で、取引先との公正・公平な関係保持や、清廉性の維持に対する認識強化を図っています。

サミー

管理レベル向上と協力体制の構築

サミーでは、取引先に対して定期的に説明会を実施するなど購買方針の開示に努めています。また、定期的な監査を実施し、取引先評価の見直しをするとともに、互いの管理レベルの向上と信頼関係の強化を図っています。

また、コンプライアンス体制の構築と運用を最重要事項として捉え、体制の整備を図るとともに、取引先に対して「取引の清廉性」への考え方、および「お取引さま相談窓口」設置に関して、文書にて通知しています。

「取引の清廉性」については、以下の事項について理解していただくことに努めています。

- 役員や社員が取引先との健全かつ正常な取引関係を維持していくこと
- 役員や社員が取引先との一般的な商慣習を逸脱した接待・贈答を受けたり行ったりしないこと

こうした取り組みにより、健全な取引を通じてお互いの信頼関係を深め、協力体制を続けていきます。

また「お取引さま相談窓口」については、サミーの役員、社員が取引先に対して、万一不当な要求をするようなことがあった場合を想定し、取引先のための相談窓口を設けました。相談を受けた場合は、取引先が不当な扱いを受けることがないよう中立的な立場であるコーポレート本部が対応し、担当役員にて責任を持って処理を行います。

これらを2005年度に全取引先に通知し、新規の取引に関しては取引開始時に文書にて通知するとともに、コンプライアンスに関する説明を実施しています。

このほか、直接の取引を担当していない第三者部門(内部統制推進室)による購買実績のモニタリングを行うことにより、公正性の確保を図っています。

健全・良好な関係を維持するための定期的な説明会

株主・投資家とともに

CSR憲章　With Shareholders and Investors

私たちは､グローバルな視点をもって事業を展開し､継続的な成長･企業価値の最大化を目指します｡そして、適正な利益還元と適時的確な情報開示を通し、透明な経営を図り、株主･社会の期待に応えます。

CSR推進項目

グループCSR推進項目のうち、株主･投資家については、以下の項目を重点的に実施しています。

･正確･公平･迅速な情報開示
･株主･投資家との双方向コミュニケーション

株主構成の推移

(単位:%)

所有者区分	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期
政府・地方公共団体	0.00	0.00	0.00
銀行	0.44	0.52	0.51
信託銀行	14.19	11.60	7.88
生命保険会社	1.02	1.07	1.19
損害保険会社	0.28	0.33	0.28
そのほかの金融機関	0.35	0.54	0.47
証券会社	1.29	1.04	2.02
そのほかの法人	21.78	7.02	7.33
外国法人等	26.64	35.50	36.70
個人・そのほか	33.95	31.34	32.57
自己名義株式	0.05	11.04	11.04
合計	100.00	100.00	100.00

※2005年3月期｢そのほかの法人｣にはサミー･セガ両社のホールディングス株式保有分が含まれる。
※2007年3月末現在､株主数は101,258名。

正確・公平・迅速な情報開示

株主･投資家の皆さまの信頼を勝ち得るために法や規則に則って適正に対応

透明性の高いディスクロージャー・ポリシー

ホールディングスでは、東京証券取引所の定める｢上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則(以下、｢適時開示規則｣という。)｣に沿って、情報開示を行っています。また、適時開示規則に該当しない情報についても、株主･投資家の皆さまの要望に応えるため、より正確･公平･迅速な情報開示を積極的に行っていきます。

●公表すべき重要情報

以下の会社情報を公表すべき重要情報と位置づけています。

- 金融商品取引法、各上場証券取引所適時開示規則等により開示が要請される情報
- 上記に該当しない投資家の皆さまの投資判断に大きな影響を与えると思われる情報

●開示場所・時間に関するルール（TDnetなど）

適時開示規則に該当する情報の開示は、同規則に従って、東京証券取引所への事前説明の後、適時開示情報伝達システム(TDnet)にて公開しています。TDnetにて公開した情報は、ホールディングスIRサイトにて速やかに掲載しています。また、適時開示規則に該当しない情報に関しても、適切な方法により正確かつ公平に株主･投資家の皆さまにお伝えしています。

●沈黙期間

決算発表資料準備期間中に株価に影響のある情報が漏れることを防ぐために、決算発表前4週間を沈黙期間として、決算に関連するコメントや質問への回答を控えています。ただし、沈黙期間中に業績予想値と実績値が大きく乖離する見込みが出てきた場合には、適宜、プレスリリースにより情報開示を行うこととしています。

株主･投資家の皆さまとの双方向コミュニケーション

ホールディングスでは、国内外における投資家向け説明会などの実施や、株主･投資家の皆さまからのお問い合わせにお答えするためのIRインフォメーションセンターの設置などを行っています。また、アニュアルレポートやホールディングスWEBサイトをはじめとした各種IR制作物を通じ、適時的確に経営情報を発信しています 。

■2006年度における主なIR活動

活動	回数
決算説明会	2回
四半期決算説明会(電話会議)	2回
スモールミーティング	6回
個別ミーティング	396回
工場見学会	2回
個人投資家説明会	1回
海外ロードショー(アジア･欧州･米国)	1回

株主・投資家の皆さまとの対話の充実

株主・投資家の皆さまとのさまざまなコミュニケーション活動を通じて、当社の経営情報を的確に伝達すると同時に、投資家の皆さまからの経営に対する貴重なご意見を収集し、経営へのフィードバックを行っています。

具体的には、国内外の機関投資家や証券アナリストに対して決算説明会を半期に1回ずつ、また四半期決算に関してはテレフォンカンファレンスを開催しています。そのほか1対1の個別取材やスモールミーティングなども積極的に開催、参加をしています。海外の機関投資家に対しては年1回の海外ロードショー（訪問地：アジア、欧州、米国）を行っています。またサミー川越工場の見学会や、個人投資家向け説明会への参加などの活動を実施しています。

また、経営統合後初めてとなる株主アンケートを2007年3月期中間事業報告時に実施しました。あわせて、問い合わせ対応の窓口の充実も図りました。

個人投資家説明会

ホールディングスIRサイトによるグループ情報の発信

ホールディングスIRサイト上にセガサミーグループの経営情報を適時的確に掲載しています。「一目でわかるセガサミー」ページではグループの事業を分かりやすく紹介し、「バーチャル工場見学」ではサミー川越工場を紹介、「Virtual Amusement Center Tour」（英語版のみ）ではセガのアミューズメント施設運営・機器販売事業を海外向けに紹介するなど、株主・投資家の皆さまにグループへの理解を深めていただくための情報を掲載しています。今後も皆さまのご意見を反映し、さらなる充実を図っていきます。

ホールディングスIRサイトは大和インベスター・リレーションズ株式会社が2007年4月に発表した「インターネットIRサイトの優秀企業」に選出されました。なおホールディングスIRサイトが選出されたのはサミーのIRサイトでの受賞をあわせて7年連続となりました。

利益還元とインサイダー取引防止

株主・投資家の皆さまの要望に適宜・的確・十分に応えるために適正な株主還元と情報管理を実施

株主の皆さまへの利益還元

ホールディングスでは、株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要課題として位置づけ、利益に応じた適正な配当を行うことを基本方針としています。

インサイダー取引防止への取り組み

ホールディングスでは、役員および社員によるインサイダー取引を防止するために、「セガサミーグループインサイダー取引防止規程」を制定しています。この規程は、法令が定める自社株券等の売買規制に関する事項を記載し、あわせて役員および社員による自社株券等の売買について事前の届出義務を定めることにより、インサイダー取引発生の未然防止に努めています。

また、イントラネット等によりインサイダー取引規制に関する情報を適宜発信するなど、役員および社員のインサイダー取引防止への意識が高まるよう、各種施策を実施しています。

ホールディングス　IRサイト　トップページ
http://www.segasammy.co.jp/japanese/ir/index.jsp

2007年「インターネットIRサイトの優秀企業」に選出されました。

セガ

従業員とともに

CSR憲章　With Employees

社員一人ひとりの創造性とチャレンジ精神がグループ発展の源であり、最大の財産です。
私たちは、社員が持つ限りない可能性を最大限発揮できる企業文化を育み、ともに成長していきます。

CSR重点推進課題

セガはグループCSR憲章を受け、CSR重点推進課題として以下の項目について重点的に実施しています。

- ・メンタルヘルス対策
- ・障がい者雇用率の向上
- ・育児に関する制度の充実
- ・有給休暇取得率の向上

セガ　人事関連項目定量データ

男女別採用数	男性	女性	合計
新卒採用数※1	113名	41名	154名
中途採用数※2	241名	65名	306名
社員数	2,837名	483名	3,320名

項目	
平均勤続年数※3	8年3ヶ月
管理職	
管理職数	529名
全社員に占める割合	15.9%
女性管理職	
女性管理職数	13名
全管理職に占める割合	2.5%
有給休暇取得率※2	21%
育児休業取得者数※2	13名
労働災害発生件数※2※4	
通勤災害発生件数	18件（12件）
勤務内災害発生件数	72件（65件）

※:注記の無い場合2007年3月31日現在
※1:2006年4月1日実績
※2:2006年4月1日～2007年3月31日実績
※3:セガグループ内転籍を通算
※4:（　）内は、アミューズメント施設での発生件数

キャリアパス

**やる気を引き出す人事制度と教育制度により
活発な社内コミュニケーションで働きやすい職場に**

【人事制度】コース選択可能な資格制度と公正な評価による処遇

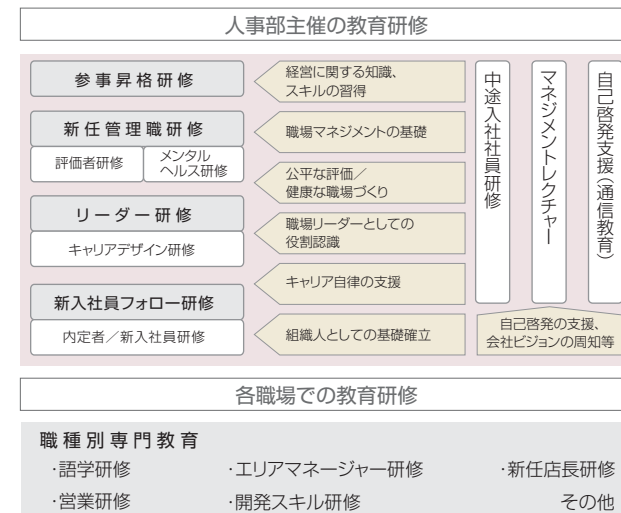
セガでは、社員のさらなる能力発揮とモチベーション向上のため、2007年4月より新人事制度を導入しています。これは、社員が強いプロ意識を持てるよう、資格・役割・成果に応じた報酬の実現を図るというもの。新人事制度の適切な運用に不可欠である公正な評価実現のため、管理職全員に評価者研修を必須としています。

また、社員のキャリア形成支援のために複線型人事制度を導入し、マネジメント職とプロフェッショナル職のコース選択を可能に。そのほかにも社内公募制度を導入するなど、何ごとにも挑戦していこうという企業風土が醸し出されています。

【教育制度】自発的なチャレンジを支援し潜在能力を伸ばす研修

セガでは、社員の資格や職種に応じた教育研修を継続的に行っています。人事部が主催する教育研修では、新入社員研修・昇格時研修・若手社員のキャリアデザイン支援の研修・管理職の公正な評価を支援する評価者研修・健康で安全な職場づくりのためのメンタルヘルス研修などを実施しています。また各職場では、職種に応じた専門教育を実施しています。

さらに、社員の自発的な能力向上に対する取り組みを補助する制度もあります。具体的には、スキルアップにつながる通信教育講座の受講に際して受講料の半額を補助する制度や、受験費用の割引を行う制度などを整備。また社員が自発的に自己啓発を希望する場合は、外部の教育サービス提供者と提携し、社員が適切な教育メニューを受けられるよう努めています。

■セガ 研修制度

【社内コミュニケーション】業務をより円滑に進めるための仕組み

セガでは、社内コミュニケーションを促進させる仕組みとして、イントラネットの整備、目標管理の導入、レクリエーション活動、会議・話し合いの場を設けています。

業務上または生活上の各種相談においては、日常的な職制上の相談に加え、セクシャルハラスメント・パワーハラスメント・人事・キャリア・育児相談窓口や、法律相談、健康相談窓口を社内外に設置しています。

また、コンプライアンス推進に関する制度、個人情報保護に関する制度に加え、重要法令などの情報を社員に流す場合には、情報の受け手のスムーズな理解のため、Q&A・諸般定型書式の雛形を定めるなどの整備を進めています。

ダイバーシティ

雇用・社会環境・生活環境の変化に合わせ
ダイバーシティに対応する制度を充実

【採用】公正な選考と入社後のフォロー体制を構築

セガでは、多様な雇用形態があり、従来から性別・国籍等の区分け無く採用をしています。また、高年齢者再雇用についても制度を設け、それぞれの雇用形態の基準に従い採用しています。

入社した社員に対しては、オリエンテーションや導入研修を行うなどスムーズな配属を支援しています。また、正社員においては、入社3ヶ月経過時点で勤務評定・人事面談を行い、配属先でのフォローに活用するほか、以降の採用の参考としています。

【障がい者の雇用】積極的かつ継続的な雇用の促進

セガでは、部門別の障がい者採用計画を策定し積極的な雇用に取り組み、CSR重点推進課題の一つとしても捉え、働きやすい職場づくりを進めています。職場環境としては、障がい者職業生活相談員を各部門に配置すべく推進しているほか、定期的な面談を行うなど、バックアップ体制を整えると同時に、障がい者雇用に対する社内意識の向上にも努めています。

【ワークライフバランス】仕事と家庭の両立で能力を最大限に発揮

セガでは、社員が仕事と家庭の両立を図ることができるよう、法令を上回る育児休業制度や介護休業制度などを設け支援しています。

出産・育児休暇の取得前には、取得者および上長に対し、育児制度や諸手続きについて説明。また、育児相談窓口の設置や、子育て情報を交換できる「子育て広場掲示板」の開設も行っています。これらを含む会社情報は、休業中も閲覧が可能であり、スムーズな職場復帰を実現しています。

また、社員の有給休暇取得を促進させるため、計画的な有給休暇の付与を実施しています。

■セガ 育児・介護に関する制度

育児	育児休業制度	子が1歳に達するまで利用可能。 (要件を満たす場合、1歳6ヶ月に達するまで延長可能)
	育児短時間勤務	子が小学校に入学するまで、利用可能。 また、3歳に達するまで、給与控除を行わない。
	子の看護休暇	子が小学校に入学するまで、年間5日利用可能。
介護	介護休業制度	1要介護家族につき連続する3ヶ月の範囲で取得可能。
	介護短時間勤務	1要介護家族につき、通算93日の範囲を限度として、利用可能。

【福利厚生】幸福感や豊かさを感じながら働ける環境を目指して

セガでは、社員がリフレッシュし、仕事への英気を養えるよう、さまざまな福利厚生制度を用意しています。社員の疲労回復や健康増進を目的とした本社地区でのリラクゼーションルームの設置や、保養所(山中湖、小名浜、逗子マリーナ等)の整備。また部門単位で行うレクリエーション活動に補助費を支給することで活動の活発化を支援し、社員のコミュニケーション促進、組織・チーム力アップや心身の健康増進を図っています。

そのほか、年間一定のポイントを付与し、ポイント範囲内でさまざまな形でのサービスを利用できるセガマイレージ制度(カフェテリア制度)など、社員一人ひとりのニーズに合った福利厚生の提供に努めています。

安全・衛生

より安全に、健やかに働ける環境を目指して

セガでは、安全衛生委員会をはじめ、定期的な健康診断の実施、人間ドック受診補助や、安全や健康に関する専門的な窓口に加え、看護師の常駐および、内科、精神科医の相談が可能な健康管理センターの設置のほか、外部のEAP(社員相談サービス)と連携したカウンセリング体制の構築などを行っています。

また、防災対策については、「防災月間」を制定し、防災グッズの配布や、訓練の実施、各種情報WEBサイトを開設。災害発生時には、社員の早期安否確認体制を整えています。

多様なバックグラウンドの社員が活躍できる環境があります

株式会社セガ　アリ・スタイマン

海外法務業務を担う法務部の一員として、全世界の、さまざまな国々の法律問題を扱っています。

法務部には、多様な文化的背景や、国籍を持つ多くの人が働いています。わたしはアメリカ出身で、ニューヨークの弁護士資格を取得しています。現在は、海外子会社法務の統括を含む、海外法務面での責任者となりました。セガの素晴らしさは、さまざまな国籍の社員、また障がいを持つ社員なども、能力さえあれば、それに報いることだと思います。セガで働けることが誇りです。それは、セガが、多様性とグローバリズムを尊重する、質の高い人々の集まりだからです。

サミー

従業員とともに

CSR憲章　With Employees

社員一人ひとりの創造性とチャレンジ精神がグループ発展の源であり、最大の財産です。
私たちは、社員が持つ限りない可能性を最大限発揮できる企業文化を育み、ともに成長していきます。

CSR推進計画

サミーはグループCSR憲章を受け、CSR推進計画として以下の項目について重点的に実施しています。

- 人財マネジメントポリシーに基づいた仕組み作り
- 新たな教育体系の検討および構築
- ワークライフバランス支援
- 安全で働きやすい職場環境づくり

サミー　人事関連項目定量データ

男女別採用数	男性	女性	合計
新卒採用数※1	50名	7名	57名
中途採用数※2	97名	12名	109名
社員数	975名	125名	1,100名

項目	
平均勤続年数	5年6ヶ月
管理職	
管理職数	258名
全社員に占める割合	23.5%
女性管理職	
女性管理職数	4名
全管理職に占める割合	1.6%
有給休暇取得率※2	46%
育児休業取得者数※2	3名
労働災害発生件数※2	
通勤災害発生件数	2件
勤務内災害発生件数	5件

※:注記の無い場合2007年3月31日現在
※1:2006年4月1日実績
※2:2006年4月1日～2007年3月31日実績

キャリアパス

社員が自分の力を最大限に発揮できるために
報酬制度と公正な評価で、プロ意識を高めていく

【人事制度】成果主義を基本とした人事制度を導入

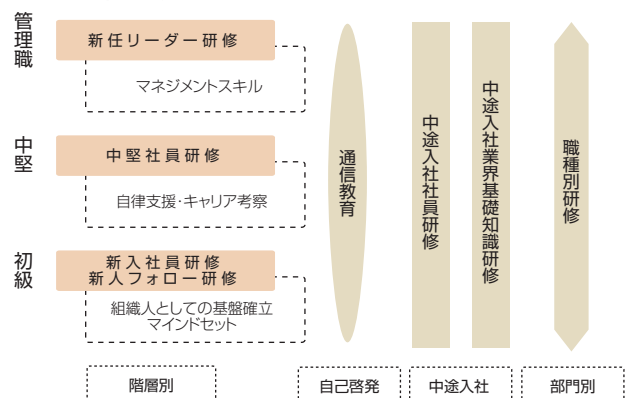
サミーでは、2001年3月に人事制度を大幅改定。以降、2004年4月までに3回の改定を繰り返し、より社員の貢献意欲に応えるべく内容の充実を図っています。その狙いとするところは、全社員に強いプロ意識を持ってもらうこと。そのため、成果主義に基づいた処遇･報酬システム、および公正な評価体制を整えています。また、プロ意識の醸成という観点から、自分でキャリアを選択できる制度を整備して自主性を引き出したり、マネジメントコースとプロフェッショナルコースを設置して専門性の確立と役割の明確化を図ってきました。

その後も、幅広い人財の活用を目的として、制度を改定しており、今後とも人財マネジメントポリシーに基づいて、社員が個々の能力を最大限に発揮できる仕組み作りに取り組んでいきます。

さらに、ストックオプション制度など、社員にインセンティブを付与する諸制度を整備しており、これまでに計8回にわたって社員に株式の付与を行ってきました。また、社員の主体的なキャリア形成のため、社内公募制度を設けており、多くの社員が積極的に利用しています。

【教育制度】責任ある育成、自らチャレンジする人財への能力開発の機会

サミーでは、階層別研修と、職種に応じた部門内研修を行っています。階層別研修では、初級クラスの社員に対し、仕事の進め方や取り組みといった仕事に対するマインドを育てる研修を実施。中堅クラスの社員には、自律の促進や、今後のキャリアを考察するための研修を行っています。管理職には、リーダーとしての能力を養う研修を実施しています。また、他業種からの中途入社者もスムーズに現場に溶け込めるよう、中途入社社員研修を実施しています。

■サミー 研修制度

一方、職種別の研修では、人事部と各本部が連携して研修実施スキームを構築することで、現場に即した教育・研修を実施しています。

【社内コミュニケーション】業務をより円滑に進めるための仕組み

サミーでは、社内コミュニケーションを促進させる仕組みとして、イントラネットの整備や、年に1度の事業戦略説明会など、会議の定期的な開催に努めています。また、社内報「Sign」の発行や、各部からの業務等に関連する通知を行っています。また、職場内コミュニケーションを円滑にする取り組みとして、社内同好会制度を設けています。

ワークライフバランス

より快適に働ける制度・環境の実現のために
仕事と家庭の両立支援により能力を最大限に引き出す

【仕事と家庭の両立】法令の基準を上回る支援体制

サミーでは、次世代育成支援対策推進法で規定されている次世代行動計画に基づき、法令で定められた制度の整備に満足することなく、育児短時間勤務制度の拡張、時間外労働削減のための「ノー残業デー」の導入など、働きやすい環境の整備を進めています。また、有給休暇の取得促進に関する制度導入の検討を進めています。

■サミー 育児・介護に関する制度

育児	育児休業制度	子が1歳に達するまで利用可能。 （要件を満たす場合、1歳6ヶ月に達するまで延長可能）
	育児短時間勤務	子が小学校に入学するまで、利用可能。
	子の看護休暇	子が小学校に入学するまで、年間5日利用可能。
介護	介護休業制度	1要介護家族につき年間通算93日以内で取得可能。
	介護短時間勤務	1要介護家族につき、連続する93日間を限度として、利用可能。

【福利厚生】専門業者の活用で福利厚生サービスが向上

サミーでは、社員がリフレッシュし、仕事への英気を養えるよう、福利厚生制度の充実に取り組んでいます。2006年10月からは専門業者（リロクラブ）に福利厚生の一部をアウトソーシングし、社員が受ける福利厚生サービスの質の向上、効率化を図っています。施設としては、伊豆、小淵沢、軽井沢、苗場、草津に保養所を持ち、社員およびその同行があれば誰でも利用できるようにしています。

ダイバーシティ

より相応しい人財との出会いを求めて
適正な選抜とフォロー体制の構築

【採用】チャレンジ精神に富んだ人財を積極評価

サミーでは、求める人財像を明確にし、適正な採用フローに基づき、面接および適性検査を行い、基準を満たす人財を選定しています。また、サミーの社是は「積極進取」であり、チャレンジ精神に富み、何ごとにも前向きに取り組む姿勢を持った人財を積極的に採用しています。女性の採用にも前向きで、入社後は性別に関わらず公平に評価する人事制度となっています。

【障がい者の雇用】積極的かつ継続的な雇用の促進

サミーでは、障がい者の雇用に関して、年3〜4回程度、職業安定所および人材サービス会社主催の障がい者合同面接会へ参加し、継続的な採用活動を行っています。

安全・衛生

より安全に、健やかに働ける環境を目指して
各種の相談窓口を整備

社員の健康と安全を守るため、毎月、安全衛生委員会が開催されています。川越工場においては、社員自らが身の回りにひそむ危険要因をチェックし、ここで指摘された事項を改善していく「6Sパトロール」という活動を行っています。

また、長時間の残業をする社員にはその抑制を働きかけるほか、産業医や看護師による面談・相談の体制も整えています。今後はメンタルヘルス対策として、外部資源を活用した相談体制の整備やセルフケア促進のためのツール導入など、予防的対策と早期対応の実現に向けて充実を図っていきます。

平等な評価システムがあるから、やりがいを持って働けます
サミー株式会社　齋藤 美津子

パチンコの枠や盤面などのデザインを担当する部門でマネージャーとして働いています。総合的なデザイン力が問われるやりがいの感じられる仕事で、グループは男性6名、女性4名。サミーでの社員評価は、上長と本人とで個人業績管理シートを作成し、半期ごとの達成度が実績に基づき評価されるので、性別に関係なく自主性を尊重される雰囲気があります。マネージャーとして、前向き・貪欲・探求の精神でさらに楽しく働ける環境づくりをしたいという目標を持っています。新しいデザインを生み出すためにチャレンジしたり、自分のデザイン案を実現するための取り組みに熱心な部下には、背中をポンと押してやるようなサポートを意識しています。

社会とともに（社会貢献）

CSR憲章　With Society

私たちは、企業市民として社会を構成する一員であることを強く自覚し、本来の事業活動の繁栄を通じて社会に貢献するだけでなく、芸術・スポーツなどの文化の発展支援への取り組みを、積極的かつ自主的に行います。

CSR推進項目

グループCSR推進項目のうち、社会（社会貢献）については、以下の項目を重点的に実施しています。

- ・スポーツ、芸術など文化活動支援
- ・社会貢献活動の支援
- ・社会的責任（寄付活動）
- ・事業性を伴う社会貢献活動

セガサミーグループの社会貢献とは

セガサミーグループは、国際社会の一員であることを強く意識し、良き「企業市民」として社会に貢献する必要を強く認識しています。夢と感動を与えるエンタテインメントの提供により豊かな社会の創出に貢献するだけでなく、スポーツや芸術などさまざまな活動を幅広く継続的に支援しています。また社員一人ひとりの社会貢献意識を高める風土づくりも積極的に行っています。

スポーツ・芸術・文化活動支援

健やかで、心豊かに過ごせる社会の実現のために
支援を通して豊かな社会を築く

スポーツ

セガサミー野球部野球教室

セガサミー野球部は、小中学生を対象とした野球教室を日本全国各地で開催しています。2006年度はのべ700名以上の子どもたちに、キャッチボールやバッティング、守備などの指導をするだけでなく、一緒に汗を流しました。こうした交流活動を続けることで、国民的スポーツの代表である野球の裾野拡大を支援しています。

野球教室の様子

ベースランニングの練習

「長嶋JAPAN　ドリームプロジェクト 2007」

アテネオリンピックで日本中に感動を届けた「長嶋JAPAN」が繰り広げるイベントに特別協賛し、野球というスポーツの素晴らしさや楽しさを、子どもたちに“生きた体験”として伝えることができました。

イベント当日の様子

「パラリンピック」

もう一つのオリンピックとして、障がいのあるトップアスリートたちが競い合う世界最高峰の競技大会。「財団法人日本障害者スポーツ協会」への協賛を通じて、日本における障がい者スポーツの振興に貢献しています。

「日本障害者クロスカントリースキーチーム」

「日本障害者クロスカントリースキーチーム」を支援しています。2006年3月、同チームの井口（旧姓：小林）深雪選手は、ノルディック競技の日本代表として「トリノ冬季パラリンピック」に出場し、金・銀メダルを獲得しました。

「特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本」

スペシャルオリンピックス（SO）は、知的発達障害のある人たちに、日常的なスポーツトレーニングと、その成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供している国際的なスポーツ組織です。

2006年11月、その全国大会である「第4回SO日本夏季ナショナルゲーム・熊本」を支援。参加したアスリートたちが、自ら培った力のすべてを発揮し、多くの人々と友情を分かち合う場となりました。

© Special Olympics Nippon

「SEGA SAMMY ATHLETE PROGRAM」

この先世界にはばたいていく若手アスリートたちへ、競技に集中できる環境を提供するため、トレーニングプログラムを用意し、応援しています。

「ゴルファーの支援」

セガサミーグループが主催する、ジャパンゴルフツアー「セガサミーカップ」において、少年少女スナッグゴルフ（P35参照）教室を積極的に開催しています。

ジャパンゴルフツアーチャレンジトーナメントでも、特別協賛を通して、明日を担う若手プロゴルファーに活躍の場を提供しています。

芸術

「東京JAZZ2006」

東京国際フォーラムにて開催され、2006年9月、5回目を迎えた国内最大級のジャズフェスティバルに対して支援を行い、世代を超え、国境を越えて集った一流アーティストとともに、地域活動との連携を深めながら、東京の新しい文化の発展に寄与しました。

© 東京JAZZ2006

「カンツォーネの世界」

2007年2～3月、「日本におけるイタリア年」を記念し、横浜みなとみらいホールで行われたコンサートに協賛し、芸術文化の発展と、日伊友好に貢献しました。

オペラ「ドン・ジョヴァンニ」

2005年10月、著名な指揮者、大野和士凱旋　モネ劇場初来日公演を支援し、演劇と音楽による舞台芸術の発展に寄与しました。

バレエ公演「シザーハンズ」

2006年8～9月、大ヒット傑作ファンタジー映画の世界初舞台化を試みたバレエ公演の支援を行い、海外のバレエによる舞台芸術の発展に寄与しました。

photo by
BILL COOPER

文化

日韓友好特別記念　日本民藝館音楽会「友情の架け橋」

民芸運動の先駆者である柳宗悦が創立した、日本民藝館にて開催された音楽コンサートの支援を行い、日韓友好に貢献しました。

「Dankai日本橋アカデミー」

団塊世代の「可能性ある未来」を模索してきた、日本経済新聞主催の「Dankai日本橋アカデミー」の主旨に賛同し、2006年12月に行ったワークショップフォーラムに、ホールディングス代表取締役会長兼社長 里見 治がパネリストとして出席しました。

このほか、中近東の文献や考古資料の収集に取り組む財団法人中近東文化センターの「アナトリア考古学研究所」の整備に対する寄付や、企業によるメセナ（芸術文化支援）活動の活性化を目的とする「社団法人企業メセナ協議会」への寄付を行いました。

また、ホリプロ主催ミュージカル「プレイバックPart2」、小児がん制圧のキャンペーンである毎日新聞社主催「生きる2005 石原プロとともに」、演奏家や教育者の門下生をはじめ幅広い方々が参加する社団法人日本クラシック音楽協会「日本クラシック音楽コンクール」、学習施設やプログラムの拡充を目指す青山学院大学「EVERGREEN21」プロジェクトへの支援を行いました。

社会貢献活動の支援

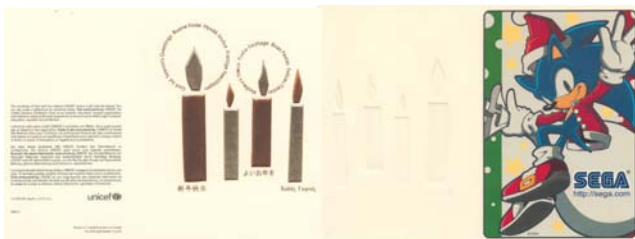
社員の自発的な活動の活発化のために ボランティア休暇制度などを整備

企業として本業を通じての社会貢献を行うだけでなく、社会を構成する一員である社員一人ひとりが、自発的に社会貢献活動を行える環境づくりも大切であると考えています。

ホールディングスとセガ・サミーでは、社員の社会貢献活動を促進させる、ボランティア休暇制度を導入しています。

セガ

ユニセフのグリーティングカードの採用

セガでは、欧米の取引先へのグリーティングカードとして、「財団法人日本ユニセフ協会」のカードを採用しており、2006年度には約2,000部の実績がありました。カード・封筒代金の約半分が全世界のユニセフ活動資金となっており、子どもたちの命と健やかな成長を守るために役立てられています。

2006年度　ユニセフ・クリスマスカード　©SEGA

サミー

使用済切手の回収

サミーでは、社会貢献活動の一環として、社員が協力し合って使用済切手の回収に取り組んでいます。本社をはじめ各支店での活動により、2006年度には1,317枚の回収実績がありました。回収した切手は、東京都豊島区の社会福祉協議会と連携し、切手収集家の方々の協力を得て換金します。得られた資金をもとに、アジアを中心とする医療に恵まれない地域への医療従事者の派遣が実現されています。また、アジア各国で医療従事者を目指す人々の援助にも役立てられています。

使用済切手回収の全社的展開（仙台支店の様子）

社会的責任（寄付活動）

国際社会の一員として 豊かな社会の実現のために

永続性のある寄付活動

セガサミーグループが、社会の一員としての責任を果たし、豊かな社会の実現と文化の創造に少しでも貢献するためには、目的が明確でかつ効果を意識した、軸のぶれない持続性のある寄付活動も必要です。

そのため、「グループCSR憲章」および「グループ行動規範」に基づきガイドラインを制定し、計画的かつ能動的な寄付活動を実施しています。ガイドラインにおいては対象先の選定、分野の特定、寄付金額水準の妥当性を明確にしています。なお、迅速な対応が要求される災害支援については、少しでも早く罹災者を支援できるよう留意して設計しています。

災害支援

セガサミーグループでは、国際社会の一員であることも強く意識し、国内のみならず世界のあらゆる地域を視野に入れて、災害時における義援金活動などに取り組んでいます。

近年では、以下の災害支援を行いました。

［2006年度］
- ジャワ島地震災害義援金
- 大雨被害にともなう義援金［鹿児島県・宮崎県・長野県］

［2005年度］
- 米国ハリケーン・カトリーナ災害義援金
- パキスタン北部地震災害義援金

［2004年度］
- 新潟県中越地震災害義援金
- スマトラ沖地震義援金

非営利団体への寄付による社会貢献活動

歌手有志によるチャリティショーを通じて難民教育支援などを行っている「じゃがいもの会」、政府の途上国援助（ODA）など国際協力の情報センター機能を担う「財団法人国際協力推進協会」、日本とインドのパートナーシップの形成と発展に取り組む「特定非営利活動法人インドセンター」への寄付も行いました。

事業性を伴う社会貢献活動

エンタテインメントを通じて
障がい者や高齢者の楽しみを生む活動

良き「企業市民」として社会に参加し、オリジナリティ溢れるエンタテインメントを通じて夢と感動をご提供するという考えのもと、本業を生かした取り組みでも、社会の公共的な期待に応えていくことができると考えています。

セガ

「ゲームの日」・社会貢献活動に参加

毎年、11月23日の「ゲームの日」にあわせ、その前後に、ゲーム業界団体が主催する社会貢献活動のイベントが全国各地で開催されます。これは、日頃アミューズメント施設を訪れることの少ない、障がいのある方や、児童養護施設の子どもたちのために、アミューズメント施設へのご招待や、介護老人ホームや児童養護施設へのゲームの出前サービスを行うものです。セガも、業界団体の会員企業として、このイベントには積極的に協力し、全国各地で、スタッフ派遣・業務用ゲーム機や景品の提供を行い、多くの方々に、ゲームを楽しんでいただいています。

サミー

高齢者福祉施設への本社ショールームなどの開放

サミーでは、2006年6月より東京都豊島区の社会福祉協議会と連携し、福祉施設の高齢者の方々を対象に、本社のパチンコ・パチスロショールームを開放しています。

また、全国7営業拠点においても、地域の社会福祉協議会との連携を図り、同様の取り組みが実現できるよう順次準備を進めており、すでに仙台支店では2007年4月から実施しています。

幅広い世代の方々にエンタテインメントを提供しているだけでなく、地域の方々とのふれあいも大切にしています。

本社ショールーム開放の様子

ショールームで高齢者の方が遊ばれているのを嬉しく思います
サミー株式会社　梶原 照之

本社ショールームにお招きしているのは区内の3つの施設の利用者で、1施設あたり約10名がお見えになります。慣れない場所ですので、段差などに注意してご案内するよう心がけています。初めは「どうすればいいの？」という表情だった方が、遊技機に慣れるにつれて楽しげに遊ばれる様子を見ていると、嬉しさを感じます。何度も開催しているので、お互い顔を覚えてしまった方も何人かいます。同様の取り組みは、全国の拠点でも計画・実施がされているので、さらに広がっていくことを願っています。これからは、パチンコ大会のような、高齢者の方がより楽しめる企画を実現できればと考えています。

グループ会社での取り組み

グループとして貢献活動を盛り上げる
さまざまな取り組みを展開

セガサミーゴルフエンタテインメント株式会社

【事業内容】　ゴルフ場運営（ザ・ノースカントリーゴルフクラブ）

セガサミーカップの入場券収入から、地域の社会福祉協議会にパソコンやレーザープリンターを寄贈したり、地域の教育委員会にスナッグゴルフ※セットを寄贈したほか、地域の新聞社のボランティア基金等にも寄付し、社会貢活動に役立てています。また上記教育委員会のスナッグゴルフ普及活動にも人員の派遣等で積極的に協力しています。

※スナッグゴルフ
スナッグ（SNAG）は、Starting　New　At　Golf（ゴルフを始めるために）の頭文字で、ゴルフの基礎的な要素をすべて持ち合わせています。安全性が高く、分かりやすく、マナーやエチケットを学ぶこともでき、広さの限られた場所でも十分に楽しめるため、年少者のゴルフ入門用教材として脚光を浴びています。

株式会社オアシスパーク

【事業内容】　ハイウェイオアシスの運営

年1回、地元中学生による飲食・物販店での就業体験を受け入れ、働く喜びや厳しさを学ぶ機会を提供しています。また、地域イベントに協賛して会場や人員の提供を行い、地元特産品のPRや観光・交流の促進に貢献しています。そのほか、地元のシルバー人材センターへの事業委託も積極的に推進しています。

シーズ・シネマズ株式会社

【事業内容】　シネマコンプレックスの運営

映画館内に車いす用区画を設置しています。また、米国ハリケーン・カトリーナ災害義援活動の一環として、「私の頭の中の消しゴム」のチャリティー試写会を開催。さらに、入居施設である「フェスティバルウォーク蘇我」のオープニングイベントとして、「バックドラフト」の試写会を開催。ともに「善意の募金」を実施し、日本赤十字社へ寄付しました。

社会とともに（環境）

CSR憲章　With Society

私たちは、企業市民として社会を構成する一員であることを強く自覚し、本来の事業活動の繁栄を通じて社会に貢献するだけでなく、地球環境保護への取り組みを、積極的かつ自主的に行います。

CSR推進項目

グループCSR推進項目のうち、社会（環境）については、以下の項目を重点的に実施しています。

・環境に関する法規の遵守
・資源・エネルギーの効率的活用
・環境教育
・社会的責任（環境支援）

セガサミーグループと環境

社会を構成する一員として、地球環境問題に真摯に取り組む必要があるのはいうまでもありません。

セガサミーグループでは、2006年度セガ・サミーに関して、生産プロセス・商品・サービスといった事業全体を通じて環境負荷を発生させる可能性の調査を行いました。（環境分野を専門とする第三者調査研究機関に委託）

調査結果によれば、業態の特性上、環境面での深刻なリスクは見られないとのことでしたが、グループはこの結果に甘んずることなく、環境関連法規の遵守の徹底・資源やエネルギーの効率活用・グリーン調達・社用車の低公害車への切替促進など独自の環境対策を積極的に進めています。

また、社員一人ひとりが、私生活でも環境を意識した行動を取れるよう、環境意識の啓発、醸成、向上にも注力しています。

環境に関する法規の遵守

環境活動に関する基本プログラムの構築に向けて

気候変動等深刻な様相を呈する地球環境問題の対策は急務であり、企業が自発的・積極的に環境保全活動を実施し続けることが重要です。セガサミーグループは、環境法規の遵守は当然のこと、法の要求以上に環境負荷を削減し、環境保全活動の運営推進体制を確立すべく、グループ全体の環境活動に関する基本プログラムを以下のように検討しています。

① 現状把握
② 対象法規の特定
③ 環境リスクの分析
④ 環境管理項目の抽出
⑤ 事業特性に合致した環境方針や計画の策定
⑥ 組織の整備
⑦ ISO14001を参考にしたPDCAサイクルの運用

セガサミーグループは、製品の製造から料飲施設の運営まで多岐にわたる事業を展開し、環境関連法規も大変幅広くなっているため、遺漏がないように社員に対する環境教育や3R（リデュース、リユース、リサイクル）の再確認等、できるところから先行して実施しています。

資源・エネルギーの効率的活用

資源を後世に残していくために
製品の開発、回収からオフィスまで3Rを徹底

セガ

業務用ゲーム機のリサイクル処理

セガのアミューズメント施設では、なるべく長く、また、多くの皆さまに業務用ゲーム機をお楽しみいただけるよう、メンテナンスの徹底等の長寿命化を図っています。また、こうした取り組みにかかわらず、廃棄せざるを得ない業務用ゲーム機については素材リサイクルに取り組んでいます。具体的には、セガグループの物流を担う株式会社セガ・ロジスティクスサービスにおいて、物流拠点に産業廃棄物中間処理業者を招致し、アミューズメント施設等より回収した使用済み業務用ゲーム機の徹底的な素材リサイクルを実施しています。現在、関東・九州地区においては「埋立ゼロ・単純焼却ゼロ」を達成しており、さらに2007年度中には全国にリサイクルシステムを拡大する予定です。

またセガグループでは物流資材についても、リターナブル容器による納品の推進や、使用済み物流資材（段ボール、ビニール等）のリサイクルを推進しています。セガグループでは今後、リサイクルの徹底を通じて循環型社会構築に貢献していきます。

株式会社 セガ・ロジスティクスサービス
Sega Logistics Service Co., Ltd.

株式会社セガ・ロジスティクスサービスは運送・梱包・保管の物流業務を中心に、アミューズメント機器および設備の運搬・設置から保守メンテナンスサービスまで、アミューズメント施設運営のあらゆる場面をサポートしています。

省エネルギー製品の開発

セガでは、業務用ゲーム機において低消費電力製品を積極的に採用しています。たとえば、従来のCRT（ブラウン管）ディスプレイから、より消費電力の少ない液晶ディスプレイへの切り替えを推進しているほか、蛍光灯やランプのインバータ方式の採用、LED（発光ダイオード）への切り替えを進めています。

トレーディングカードの固形燃料化

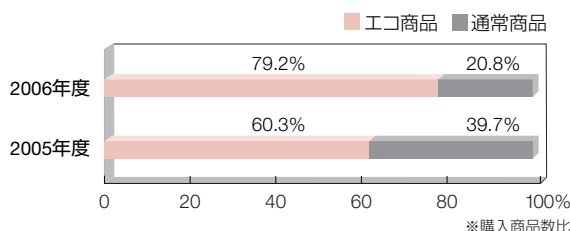
セガでは、「甲虫王者ムシキング」や「オシャレ魔女 ラブ and ベリー」などのキッズゲーム用カードを販売しています。

「30枚キャンペーン（重複カード等30枚と、グッズを交換）」にてお客さまよりお送りいただいたカードや、新バージョン発売等のための旧版は、100%固形燃料としてリサイクルされています。

破砕された廃棄カード　　リサイクルされた固形燃料

オフィスでのグリーン購入の推進

セガでは、電子購買システムを活用し、文具や名刺、リサイクルトナー等のグリーン購入を進めています。環境に配慮したエコ商品の購入数は、2005年度には約60%でしたが、2006年度には約80%に向上しています。セガでは今後も、環境配慮商品の積極的な購入を通じて、地球環境保全に貢献すると同時に、社員の環境意識向上につなげていきます。

■セガ 文具等グリーン購入割合推移

グループを挙げてリサイクル体制の強化に取り組んでいます

株式会社セガ・ロジスティクスサービス
金井 洋

セガ・ロジスティクスサービスでは、回収した使用済み業務用ゲーム機を一つ一つ手作業で分解しています。鉄・被覆銅線・蛍光灯・ガラスというように細かく分類し、できるだけ多くの部品がリサイクルできるよう努めています。以前に比べ、コストに関しては研究の余地はありますが、業界トップクラスともいえるリサイクルシステムは、グループ全体のリサイクル意識の高さを示すものだと思っています。現在、全国8地区のうち6地区で手作業の分解を実施しており、残る2ヵ所も年度内には導入予定です。今後は業務用ゲーム機の企画・製造部門も巻き込み、グループを挙げて取り組んでいきたいと思います。

グリーン電力証書の購入

セガでは2005年度より年間100万kWhの「グリーン電力証書」を購入しています。このグリーン電力証書システムは日本自然エネルギー株式会社との契約によるもので、エネルギー使用による環境負荷を減らす取り組みとして行っています。

マイクロ水力発電によるグリーン電力証書発行は、セガが日本初の契約企業となります。

■セガ グリーン電力証書購入実績

	2005年度	2006年度	累計[※1]
グリーン電力証書購入量	100万kwh	100万kwh	200万kwh（CO_2削減量約736t）
マイクロ水力	50万kwh	50万kwh	100万kwh（CO_2削減量約368t）
バイオマス	50万kwh	50万kwh	100万kwh（CO_2削減量約368t）

※1:CO_2換算係数は2007年4月環境省発表「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」を利用

さらに、2007年4月からは、Y-グリーンパートナー[※2]として横浜市風力発電事業にも協賛しています。

※2:行政（横浜市）、市民（横浜市民）、事業者（協賛企業）の3者協働により、自然エネルギーの利用促進や地球温暖化対策事業の一環として、横浜市神奈川区に設置される風力発電機を中心として行われる事業

グリーン電力証書（バイオマス、マイクロ水力、風力発電）

サミー

3Rの徹底

パチンコ・パチスロは資源有効利用促進法の対象製品であり、3Rに向けた取り組みが求められています。

2006年、サミーでは、パチンコ・パチスロメーカーとして3Rに積極的に取り組むべく、自社製品の流通フローを整理しました。これを踏まえ、フローの各場面で3Rに貢献する取り組みを進めています。たとえば、パチンコ・パチスロの設計・開発段階では、基板の種類を限定して各製品に共通して使うことができるようにし、余剰部品が発生した場合にもほかの製品に活用できるよう、資源の有効利用に取り組んでいます。また、パチンコ・パチスロ生産段階では、部品調達先に容器包装削減を依頼して廃棄物発生抑制に努めているほか、生産工程で発生する廃棄物のリサイクルや適正処理などに取り組んでいます。

さらに、多くのお客さまを楽しませた後の使用済みパチンコ・パチスロを適正に処理するため、自社台の下取りのほか、業界団体回収システム等を利用した適正なリサイクル処理を行っています。

■サミー　製品の流通フロー

グリーン調達の取り組み

サミーでは、パチンコ・パチスロの生産においてはもちろんのこと、設計・開発の段階でも資源・エネルギーの効率的活用に取り組んでいます。具体的には、環境負荷の少ない原材料を用いるグリーン調達の取り組みとして、鉛フリーはんだ部品、森林認証材、水系接着剤の採用を進めています。

生産拠点（サミー川越工場）での環境配慮

サミー川越工場では原材料の調達や製品出荷にあたり、通い箱を利用して、輸送時の容器包装を削減する取り組みを行っています。また、工場の廃棄紙を利用して作られた植木鉢を、工場見学者のおみやげとして提供しています。さらに、温暖化防止とやすらぎの場を創出する観点から、屋上庭園を含め、工場緑化を進めています。工場敷地面積16,970m^2に対し、緑化面積は5,433m^2（緑化率32%）で、埼玉県における緑化基準（25%）を大幅に超えています。また、景観面でも優れた建築物で、彩の国さいたま景観賞（埼玉県主催）、都市景観デザイン賞（川越市主催）を受賞しています。

ドットポイントグレージング工法を採用した
日本最大級のガラス建築

工場屋上庭園
環境との共生、社員の憩いの場を提供

■施設概要

項目	内容
所在地	●埼玉県川越市南台地内
所有者	●サミー株式会社
竣工時期	●2001年4月
施設の用途	●遊技機（パチンコ、パチスロ）製造出荷工場
敷地面積	●16,970m^2
緑化面積	●5,433m^2（うち屋上緑化1,105m^2、駐車場緑化250m^2、そのほか4,078m^2）

オフィスでの環境配慮

サミーのオフィスでは、再生紙利用推進や文房具などの備品についてエコマーク商品を中心としたグリーン購入や、作業服のリサイクルを通じた資源の有効活用を検討しています。また、役員を含む全社員のクールビズ・ウォームビズを通じてCO_2の削減、地球温暖化問題への対策に取り組んでいます。

環境教育の実施

グループ一丸となっての活動を目指して ハンドブックなどのツールを作成

セガサミーグループでは、グループ全体で環境保全に取り組めるよう、社員の意識向上を目指し、積極的に環境教育を進めています。CSRハンドブックやイントラネットで環境問題について意識啓発しているだけでなく、教育ツールともなる環境ハンドブックを別途作成しています。環境ハンドブックは、CSR活動により環境に意識を持った社員一人ひとりが、環境に関するより詳細な知識を持ち、環境に配慮した具体的な行動に公私両面で結びつくように、分かりやすさを重視しています。

環境をテーマとした教育ツール

また、全グループの社員一人ひとりが環境問題への取り組みの重要性を五感で感じることのできる体験型学習の実施に向け、さまざまな視察を行っています。代表的なものとしては、生物多様性というコンセプトに賛同した、群馬県北上町の「赤谷プロジェクト」※があります。

※赤谷プロジェクトは、地元の住民組織「赤谷プロジェクト地域協議会」、林野庁、財団法人日本自然保護協会が中核となって、水上町北部の国有林約10,000haの生物多様性の復元と持続的な地域づくりを目指すプロジェクトです。

環境保全活動の支援

外部団体と理念を共有して 基準を満たす外部団体へ寄付

セガサミーグループでは、グループとしての環境保全活動を進めるだけでなく、2004年度の「地球環境大賞」(主催：フジサンケイグループ)への協賛を第一歩として、さまざまな環境保全活動を支援しています。2006年度には、世界的環境NPOの「WWF※1」や「財団法人日本野鳥の会※2」、「財団法人日本自然保護協会※3」などへ支援しています。

※1：WWF（世界自然保護基金　World Wide Fund for Nature）
100を超える国々で活動する世界最大の自然保護NGO（非政府組織）。絶滅危機具種の保護や、生物多様性保全にあたっての重要地域の保全、森林や海洋の持続可能な開発の推進などの活動を行う。

※2：財団法人日本野鳥の会
1934年に創立された自然環境保全団体の先駆け。野鳥生息地の保全や絶滅危惧種の保護など、野鳥や自然を守る事業を行う。

※3：財団法人日本自然保護協会
50年以上の歴史を持つ自然保護団体。白神山地のブナ林や石垣島の白保サンゴ礁の保全活動などを行う。

●セガサミーグループにおける環境基礎データ
【対象期間】2006年4月1日〜2007年3月31日
【対象施設】
オフィス--------------------セガ:事業所・営業所（23ヶ所）　サミー:事業所・営業所・流通拠点（57ヶ所）
ホールディングス:本社（1ヶ所）
生産拠点--------------------サミー:川越工場（1ヶ所）
アミューズメント施設------セガ:直営店（193ヶ所）、ジョイポリス（3ヶ所）、温浴施設（2ヶ所）

	オフィス	生産拠点	アミューズメント施設
エネルギー使用量（電気、都市ガス、LPガス、灯油）※1	204.05TJ	30.40TJ	1,376.66TJ
エネルギー使用に伴うCO_2排出量※2	8,237　t-CO_2	1,321　t-CO_2	64,901　t-CO_2
水使用量※3	153,930m^3	10,258m^3	628,594m^3（138,675m^3）
一般廃棄物排出量（リサイクル量は除く）※4	421t	46t	1,342t
産業廃棄物排出量※4	578t	933t	131t

※1:オフィス、アミューズメント施設（温浴施設を除く）は電気使用量／生産拠点は電気、都市ガス、LPガス、灯油使用量／温浴施設は電気、都市ガス使用量を計上
一部施設についてはエネルギー料金、および床面積からの推計値
電力の熱量換算は一次換算による（8.81MJ/kWh）
TJ（テラジュール）=10^{12}J
※2:CO_2換算係数は2007年4月環境省発表『算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧』を利用
※3:一部施設については水道料金等からの推計値
アミューズメント施設（　）内数値は、アミューズメント施設のうち温浴施設（2ヶ所）における水使用量
※4:一部施設については床面積からの推計値

●サミー川越工場における環境配慮の状況
【対象期間】2006年4月1日〜2007年3月31日
【対象施設】サミー川越工場

＜環境配慮素材の利用＞	
木材使用量	4.977t
うちPEFC※認証木材	404t（8%）
接着剤使用量	2t
うち水系接着剤	2t（100%）
＜地球温暖化防止・やすらぎの場形成＞	
工場緑化率	32%

※:森林認証材
PEFC森林認証プログラム（Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes）によって「持続可能な森林管理が行われている」と第三者機関に認証された森林より適切に調達された木材。環境破壊的な森林伐採による木材や製品の流通を抑えるための仕組みで、PEFC認証木材を購買することで、持続可能な森林管理の促進に参加している。

第三者意見

石田 寛 氏
プロフィール
日本興業銀行を経て、経済人コー円卓会議日本委員会専務理事、関西学院大学大学院准教授、青山学院大学大学院国際マネジメント研究科非常勤講師、国際基督教大学国際関係学科非常勤講師、専門職大学院評価機関であるABEST21専門委員。国内外の企業におけるCSRの浸透普及に積極的に取り組んでいる。

「セガサミーグループCSRレポート2007」について

セガサミーグループは、総合エンタテインメント企業としての個性を認識したうえでの多くの評価すべきCSRの取り組みがあるが、その中でも以下の4点について高く評価したい。

1. セガサミーグループは、CSRの位置づけと概念を体系的に整備した上で、独自のCSRマネジメントを構築して、「重点実施項目」に絞り込み、「CSR推進計画」を策定しているプロセスは、論理的に展開されている。
2. このCSRレポートでは、CSRの活動を積極的に情報開示するために、「重点実施項目」で抽出された主要な課題について、ステークホルダーごとに整理されているのに加え、今後どのように改善すべきかあわせて記載されている。
3. 社員を対象にCSRの浸透普及を図るため、経営者が率先してCSRメッセージの発信を行い、「CSRハンドブック」やイントラネットのシステムを構築しており、社内の意識改革を積極的に行っている。
4. 環境面では、グループ全体で社員の環境教育に取り組むために「環境ハンドブック」を作成したり、3R（リデュース、リユース、リサイクル）に向けた取り組みを行っている。

今後、セガサミーグループが業界のリーディングカンパニーとして、さらに充実したCSRの取り組みを実現していくため、CSRマネジメントシステムのPDCAサイクルが実現できるかどうかに注目したい。また、これを実現するために、以下の点について積極的にチャレンジしていただきたい。

1. 自社のCSR活動を一元的に進捗管理できる体制を構築すること。
2. 常に社会のニーズを的確に捉え、CSR経営全体に活かすような仕組みを構築すること。
3. セガサミーグループの全社員に向けて、CSRに関する情報を共有化できるようなシステムおよび体制を運営していくこと。
4. 自社のCSR活動について、ステークホルダーに対するプレゼンスの向上を図るため、環境面等さまざまな形で積極的に情報の開示に努め、また、グループ全体で実践する環境保全活動の仕組みを構築すること。
5. 総合エンタテインメント企業の特長を活かし、良き「企業市民」として本業を通じた社会貢献活動の実現に加え、各地域社会において社員のボランティア活動を積極的に行えるようにすること。

最後になるが、セガサミーグループは、今後ゆるぎない理念を基礎として、「本業を通じてのCSR」の実践と「社会貢献の取り組みとしてのCSR」の実践という2つの軸を捉えているが、どのように具体的なCSR活動を実施していくのか注目したい。

経済人コー円卓会議日本委員会　専務理事
関西学院大学大学院　経営戦略研究科准教授
石田　寛

あとがき

「セガサミーグループCSRレポート2007」をご覧いただき、誠にありがとうございました。

私たちセガサミーグループにとってCSRレポートの発刊は本年が初めてでしたが、試行錯誤を続けながらもCSR活動自体を見つめ直すこともでき、私たちにとって本当のCSR元年を迎えることができたのではないかと感じております。

総合エンタテインメント企業であるグループにとってどのようなCSR活動をすべきか、という課題は大変大きなものでしたが、本CSRレポートの編纂を通じて、セガサミーグループでなくてはできないようなCSR活動を心がけることではないかと考えるようになりました。

今後ともCSR活動の重要な役割を担う社員の目線を尊重し、まずできるところから手がけ、また長続きできる活動になるように心がけていく所存です。

第三者意見でご指摘いただいております通り、CSRマネジメントの体系的な運営はもとより、積極的な情報開示に努めるなど、あらゆるステークホルダーとの対話を密にしながら、強固な財務体質の維持と「企業市民」としてのCSR活動とのバランスに留意し、グループと社会の持続可能な発展を目指していきたいと考えております。

セガサミーホールディングス株式会社
CSR推進室 管掌 専務取締役 石田 正

人々の心を豊かにするエンタテインメントの「力」。

時に美しく、また時に情熱的であるその特有の「力」を、

私たちはバラの花に例えました。

「世界をバラ色にするエンタテインメントを。」

大切な人の誕生日にバラをプレゼントするように、

世界中の一人ひとりに良質なエンタテインメントをお届けし、

それが幸せの糧となることを願っています。

世界をバラ色にするエンタテインメントを。

世の中が変化していくように、
エンタテインメントもまた変化していかなくてはなりません。
未来の人、社会、文化を豊かにしていくことのできる、
本当に良質なエンタテインメントを追求していかなくてはなりません。
そのために、私たちセガサミーグループは、
エンタテインメントと真剣に向き合い、
次々と新しい創造にチャレンジしていくことを約束します。
エンタテインメントで世界中の人たちに、
バラ色の歓びと夢と感動を届けるために。
これからのセガサミーグループにどうぞご期待ください。

セガサミーホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長　里見 治

Happy Entertainment to you.

http://www.segasammy.co.jp